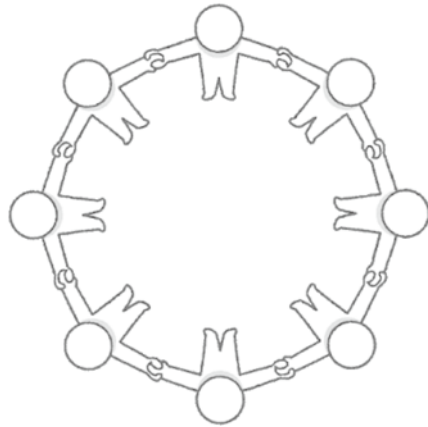


# OAC ミニフォーラムについて

～依存症からの回復を支援するための地域ネットワークづくりに向けた取組み～

大阪府こころの健康総合センター

広げよう つながろう 支援の輪



## はじめに

大阪府では、関係機関・団体同士が情報共有・連携しながら、依存症の当事者及び家族等の相談・治療・回復を途切れなく支援するためのネットワークである「大阪アディクションセンター(OAC)」を設置し、準備期間を経て、平成 29 年度より本格稼働しているところです。

大阪アディクションセンター(OAC)は大阪府全域をつなぐネットワークとして機関・団体をつなぐ役割を果たしていますが、当事者や家族の方々を支援するための連携をさらに進めるために、地域(圏域等)を規模としたネットワークづくりに向けた取組みも必要であると考え、当センターでは、大阪アディクションセンター加盟機関・団体や、当センターが事務局を担っている「大阪府依存症関連機関連携会議」の委員の方々のご意見をもとに、この「OAC ミニフォーラム」の事業を平成 30 年度に立ち上げ、実施してきました。

さらに、令和4年度からは各保健所が主体となって開催し、地域のネットワークづくりに取り組んでおり、本事例集ではこれらの OAC ミニフォーラムの取組みについてまとめています。各地域において、依存症からの回復を支え、当事者、家族、支援者の誰もが孤立しないようなネットワークをつくっていくための取組みとして、本事例集を参考にいただければ幸いです。

最後に、大変ご多忙の中、OAC ミニフォーラムの企画、運営に多大なご協力をいただいた大阪アディクションセンター加盟機関・団体及び大阪府依存症関連機関連携会議委員の皆様をはじめ、本事例集の執筆にご協力いただいた保健所の皆様、当事者や家族の方々をはじめとする OAC ミニフォーラムにご参加くださった多くの関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

大阪府こころの健康総合センター

所長 籠本 孝雄

# 目次

1	OAC ミニフォーラムについて	1
2	平成 30 年度 OAC ミニフォーラムについて	5
3	令和元年度 OAC ミニフォーラムについて	12
4	令和 3 年度 OAC ミニフォーラムについて	18
5	令和 4 年度 OAC ミニフォーラムについて	23
	藤井寺保健所圏域(報告:大阪府藤井寺保健所)	26
	岸和田保健所圏域(報告:大阪府岸和田保健所)	29
	東ブロック保健所圏域(報告:枚方市保健所)	32
	北ブロック保健所圏域(報告:大阪府茨木保健所)	35
6	考察	38
	参考資料	45

## 【参考】大阪府の二次医療圏について

〔二次医療圏と各圏域管轄市町村〕

**豊能**…池田市・箕面市・豊能町・能勢町・豊中市・吹田市

**三島**…高槻市・茨木市・摂津市・島本町

**北河内**…枚方市・寝屋川市・守口市・門真市・四條畷市・交野市・大東市

**中河内**…東大阪市・八尾市・柏原市

**南河内**…松原市・羽曳野市・藤井寺市・富田林市・河内長野市・大阪狭山市・太子町・河南町・千早赤阪村

**堺市**…堺市

**泉州**…和泉市・高石市・泉大津市・忠岡町・岸和田市・貝塚市・泉佐野市・泉南市・阪南市・田尻町・熊取町・岬町

**大阪市**…大阪市

# 1 OAC ミニフォーラムについて

## I 概要

OAC ミニフォーラムは、各地域でアルコールや薬物、ギャンブル等の依存症に係る支援機関や団体、自助グループ等に所属して活動している人たちが集まって体験談を聞いたり、対話を通して交流する事業である。交流の規模は大阪府全域ではなく、保健所圏域単位等で開催するため、「ミニ」と表現している。

大阪府こころの健康総合センター（以下、「当センター」という）では、OAC ミニフォーラムを平成 30 年度、令和元年度、令和 3 年度の 3 か年にわたって府内 4 ブロック（北部、東部、中部、南部）ごとに開催し、令和 4 年度からは各地域でのネットワークづくりを目指して、大阪府保健所・中核市保健所が保健所圏域またはブロック単位保健所の共同で開催した。

## II 背景及び経緯

### (1)大阪アディクションセンター(OAC)の設立

OAC ミニフォーラムは、「大阪アディクションセンター（OAC）」という依存症関係の支援ネットワークを運営する中で、お互いの機関及び団体同士の顔が見える関係づくりの一つとして、加盟している機関団体等の意見を取り入れて生まれた事業である。

「大阪アディクションセンター（OAC）」は、「関係機関・団体同士が情報共有・連携しながら、依存症の本人及び家族等の相談・治療・回復を途切れなく支援する」ための加盟式のネットワークであり、当センターは平成 29 年度から事務局を担っている。

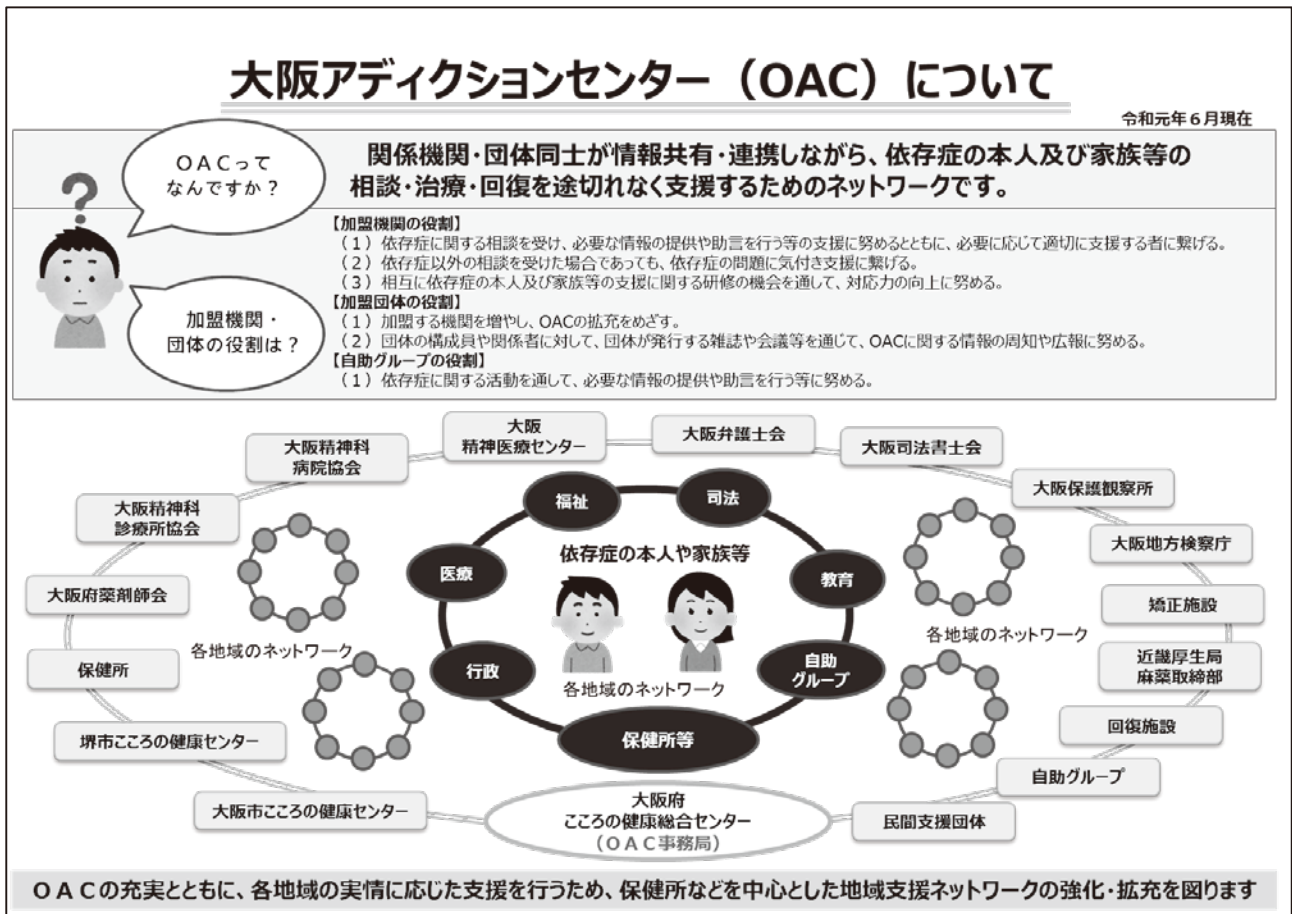
このネットワークは、平成 26 年度から平成 28 年度までの 3 か年にわたって国のモデル事業として実施した「依存症治療拠点機関設置運営事業」の中で、依存症対策を進めるためには、支援の充実に向けて関係機関が連携・協働できる仕組みが必要であると大阪府及び依存症治療拠点機関（地方独立行政法人大阪府病院機構大阪精神医療センター）が認識し、その後検討や準備を重ねて創設された。平成 29 年度より本格稼働し、令和 4 年 12 月末時点で行政機関（国・府）や回復施設、医療機関、民間支援団体等の 57 機関・団体によって構成されている（加盟機関団体は参考資料 P56～P58 参照）。

### (2)大阪府依存症関連機関連携会議での意見交換

当センターは大阪アディクションセンター事務局と並行して、大阪府における依存症対策や大阪アディクションセンターに関すること、連携体制の構築について協議・検討を行う、外部有識者によって構成されている「大阪府依存症関連機関連携会議」（以下、連携会議という）の事務局を平成 29 年度より担っている。なお、この連携会議は、先述の「依存症治療拠点機関設置運営事業」の中で依存症治療拠点病院が開催してきた「依存症対策推進協議会」の後継として設置運営されたものであり、この協議会の構成委員の多くが大阪アディクションセンター立ち上げ時の加盟機関・団体となっている。

連携会議では、大阪アディクションセンターをはじめとする、関係機関の連携推進のために必

要な方策についての意見交換を行っており、OAC ミニフォーラムもこの連携会議の場でも出された多くの意見を取り入れて実現した事業である。



【図1】大阪アディクションセンター（OAC）について

### (3) OAC加盟機関・団体へのヒアリングの実施

平成29年度及び30年度には、大阪アディクションセンターでの連携強化に向けて、各機関・団体を訪問等によるヒアリングを行い、意見をいただいた。

#### (4)連携会議やヒアリングで出された意見 ※発言は要約して掲載

- 顔の見える関係づくり、実務担当者同士のつながりの推進として、実務担当者が顔見知りになれるような座談会、茶話会、事例検討会、連絡会があればよい。実際に相談に対応する実務担当者がつながることができる仕掛けが必要。
- 会議で話しているだけでは、連携にならない。所属長ではなく、実務担当者が繋がれる仕掛けが必要。できるだけ多くの人と知り合えるような交流の仕掛けがある。
- 連携を進めるために必要な取組みとして、OAC の機関・団体同士が顔を合わせる機会が必要。月1回持ちまわりで各機関の説明会を実施したり、各機関・団体のことをもっと知ることができるよう取組みがあるのではないか。
- 回復した人たちに出会い、回復を信じられるようになることが大切。
- 今一番必要なのは、依存症が回復できる病気ということをどう伝えるか。そのためにも、体験談、自助グループに参加している本人・家族の話をメインとして大きなフォーラムをしてほしい。
- 機関・団体同士の連携における課題がある。自助グループ・回復施設と医療機関の連携がとれていない。
- 異なる依存症の自助グループ同士の連携が必要。
- 当事者はスティグマがあり回復の場に登場しにくいいため、家族支援が重要。
- 当事者は多くの課題を抱えており、一人の支援者がそれを解決することは不可能。一見関係のないような機関にも依存症の知識を持ってもらうことが必要。(例：地域包括支援センターなど)
- 自助グループの率直な意見が聞きたい。一番大切なのは、当事者の声を聴くこと。自助グループの会員数が減っており、OAC として何か支援が必要ではないか。
- OAC は府域全体のネットワークだが、実際の支援に使えるような、地域単位のもっと小さなネットワークがほしい。実際に支援する場合には、小さなネットワークでよい。
- 講義形式で一方的なもので終わってしまうのではなく、連携を深めていくためにも、グループワークなどが有効なのではないか。ファシリテートも必要。

## (5)OAC ミニフォーラムのポイントの整理

会議やヒアリングの場が出た意見等をもとに事務局で企画案を作成し、平成 30 年 8 月には OAC 加盟機関・団体に呼びかけて企画会議を行った。

連携会議やヒアリング、企画会議での意見を参考にして、開催の際のポイントとしたのは以下の 9 項目である。

- 1) 「当事者や家族から学ぶ」「当事者や家族を真ん中に」という姿勢を基本とし、ミニフォーラムの柱とする。
- 2) 回復の道にある当事者に出会って、回復を信じて関わるができるようになる。
- 3) 体験談から回復の筋道を知り、回復を信じるができるようになる。
- 4) 家族への支援は大切であり、当事者のみではなく家族の体験談も取り入れる。
- 5) 各機関や団体の長ではなく、実務担当者が知り合える機会にする。
- 6) 専門家から知識や技術を学ぶ研修ではなく、当事者や家族の体験、交流から学ぶ。
- 7) 依存症に専門的に対応していない相談窓口の機関にも参加してもらう。
- 8) 各機関・団体のことを知ることができる機会になる。
- 9) 府域全体ではなく、実際の支援に使える地域単位のネットワークづくりを目指す。

これらのポイントをもとに、事務局である当センターが平成 30 年度、令和元年度、令和 3 年度にわたって OAC ミニフォーラムを開催した。開催の概要とアンケート結果について次ページ以降に掲載する。

なお、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大により開催できず、令和 3 年度はオンライン開催とした。



## 2 平成30年度 OAC ミニフォーラムについて

### I 開催に向けた準備

#### (1)周知方法

大阪アディクションセンター加盟機関及び団体に対しては、メーリングリスト（※1）で周知案内を行った。大阪アディクションセンターに加盟していないが、地域の様々な相談対応を行っている市町村と、アノニマス系の自助グループ（※2）にも参加を呼び掛ける必要があると判断し、開催通知やチラシを送付した。

また、ほとんどの市町村では依存症の担当部署が定められていないが、依存症は精神保健福祉上の課題のみならず、生活困窮やDV、虐待、借金問題などさまざまな問題と関連することも多いため、市町村の障がい福祉担当課、保健予防担当課、生活困窮自立支援担当課、生活保護担当課、多重債務相談担当課、消費生活支援センター、家庭児童相談室に府庁の所管課を通じて参加を呼び掛けた。

#### (2)体験談の調整

体験談を話していただくため、自助グループや回復施設、当センターとつながりのある当事者、家族の方に依頼を行った。

#### (3)準備物

- ・ 受付名簿
- ・ 配架用の参加機関や団体のリーフレット等
- ・ 配布資料（次第やプログラム、配布するのであれば配布用の名簿等）
- ・ 名札（シールでも可）と名前を書いてもらうためのサインペン
- ・ 体験談発表者用の時計
- ・ 体験談発表者用の飲料水
- ・ アンケート用紙 等

（※1）大阪アディクションセンターでは、加盟機関・団体でメーリングリストによる情報交換を行っており、メーリングリストのアカウントは事務局が管理している。

（※2）参加者が実名を出さずに、匿名で参加できる自助グループのこと。

## II 開催概要

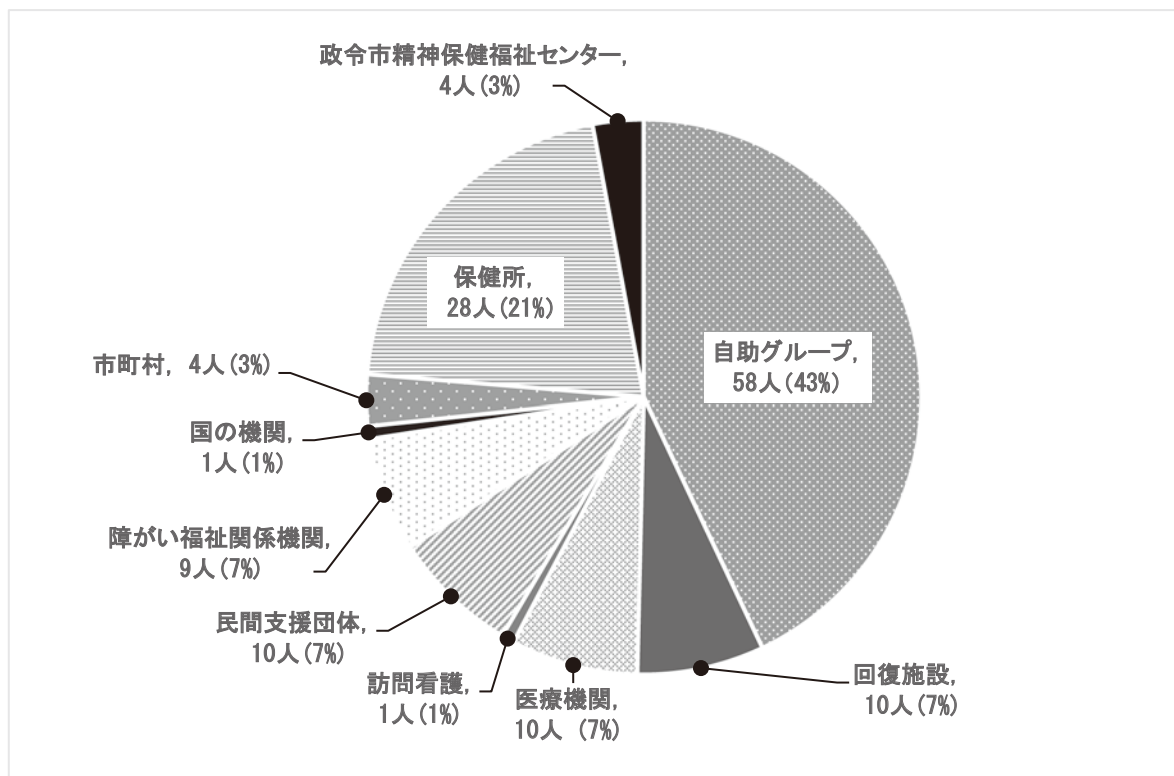
### (1)開催状況(平成 30 年度)

開催日	時間	開催ブロック (二次医療圏)	開催場所	参加 人数
12/14 (金)	14 時 から 17 時	北ブロック (豊能、三島)	吹田保健所	33 人
1/9 (水)		南ブロック (泉州)	岸和田市立福祉 総合センター	40 人
1/14 (火)		東ブロック (北河内)	大阪精神医療 センター	35 人
1/24 (木)		中ブロック (中河内、南河内)	藤井寺保健所	27 人
計				135 人

※政令市（大阪市、堺市）内の関係者は希望する回に参加

### (2)参加者の属性

自助グループからの参加が4割強で最も多く、その他に保健所、回復施設、医療機関等から参加があった。



【図2】平成 30 年度 OAC ミニフォーラム参加者属性

### (3)内容(4ブロック共通)

	内 容	時 間
1	大阪府における依存症対策の説明	5分
2	回復施設（大阪ダルク・大阪マック）の取組みの報告	(20分× 2施設)
3	体験談（アルコール、薬物、ギャンブル等の各依存症の当事者3名、 家族1名）	(15分× 4名)
4	グループワーク・交流会 自己紹介 ①名前 ②所属 ③自分のセールスポイント テーマ 「自助グループにつながってよかったこと」（当事者・家族） 「依存症の方の支援を通して感じていること」（支援者）	40分
5	感想の発表	5分

はじめに大阪府の依存症対策の概要および大阪アクションセンターの説明を当センター職員が行い、続いて回復施設2か所からスタッフ（当事者）の体験を交えつつ、取組み報告をしていただいた。

続いて、アルコール・薬物・ギャンブル等の各依存症の体験を当事者の方にそれぞれ1名ずつ、お話しいただき、その後アルコール・薬物・ギャンブル等依存症のいずれかの自助グループに所属されている家族の方、1名にお話しいただいた。

グループワーク・交流会では、数名（5～7名+ファシリテーター）のグループに分け、メンバーはなるべく所属が同じ市町村や近隣市町村になるようにし、地域単位のネットワークの形成に寄与できるようにした。また、必ず各グループに当事者や家族が入るようにして、当事者や家族との対話を通して学ぶことができるように工夫した。

### (4)アンケート結果

アンケート結果はP10～P11に掲載。

### (5)当日の様子など

最初から机をグループ単位の島型に配置（P9の会場配置図参照）し、受付でどのグループかを伝え、着席していただいた。あらかじめ用意した白紙の名札にサインペンで名前を書いて、胸部に貼っていただいた（アノニマス系の自助グループの方は、参加の申し込みも、名札の名前もアノニマスネームとしている）。また会場の端には、参加機関や団体の紹介リーフレット類を配架した。

この事業は、参加者同士がつながることが目的でもあるため、あらかじめ参加者に了解を得た

上で参加者の名簿（所属と姓のみ）を配布した。

グループワークでは、ファシリテーターの進行のもと、テーマについて話をしたり、支援者から当事者家族に質問したりしながら交流した。交流会終了後は名刺交換をするなど、参加者同士が交流する場面も見られた。



体験談発表時の様子

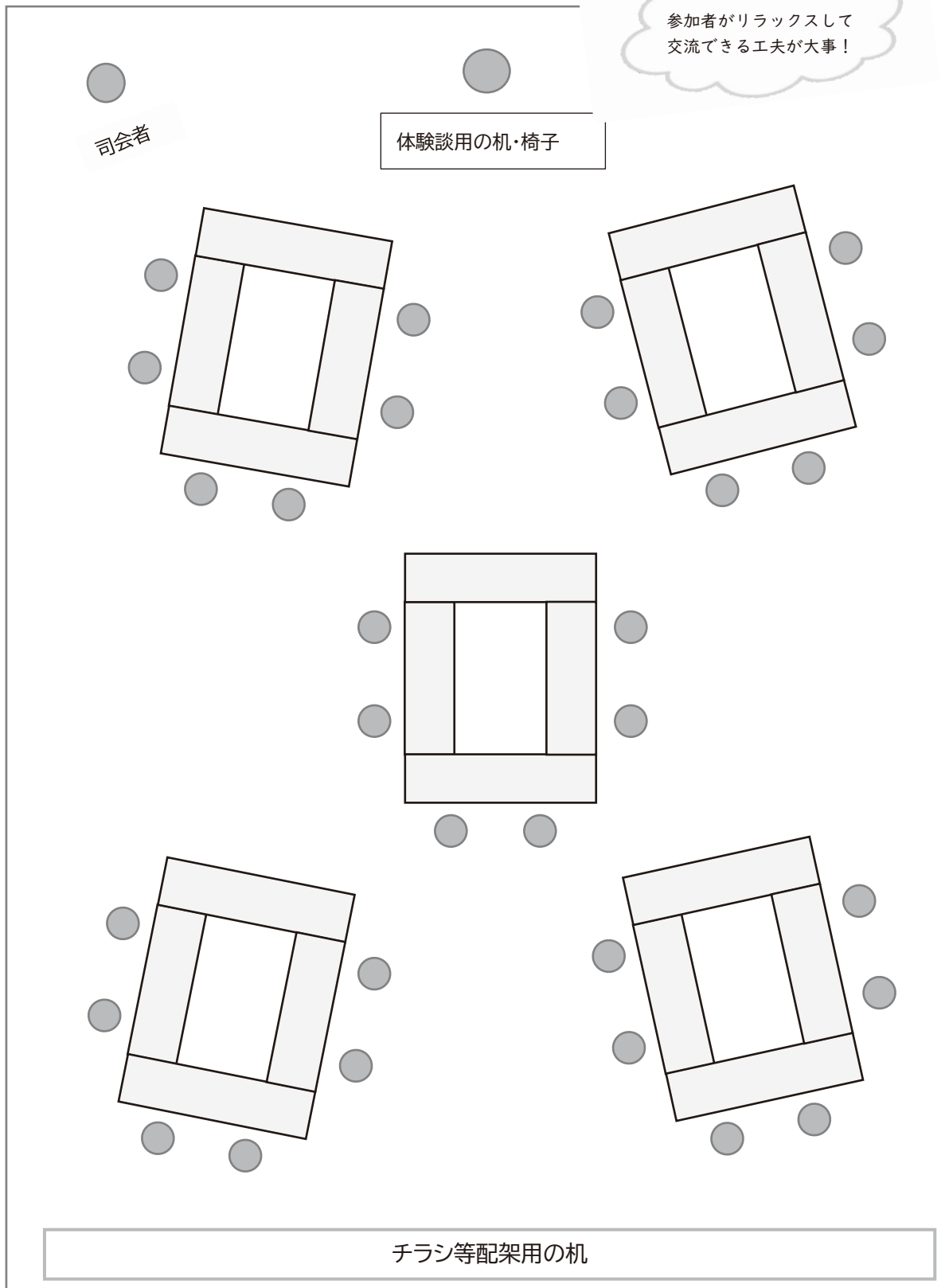


グループワーク時の様子

【参考:OAC ミニフォーラム 会場配置図】



参加者がリラックスして  
交流できる工夫が大事!



- 机は島型にはじめから配置する。体験談発表などがある前方側は、グループワークの際にファシリテーターが座る。
- 会場が狭いとグループごとの距離が近くなり、声が響いて聞こえにくくなるため、島型でもなるべく余裕をもって机を配置できる広さの会場で実施することが望ましい。
- 会場の横や後方に、参加機関や団体の紹介リーフレット類やチラシを配架する。

## 平成 30 年度 O A C ミニフォーラムアンケート結果

参加者数：135 人

アンケート回答数：115 人（回答率 85.2%）

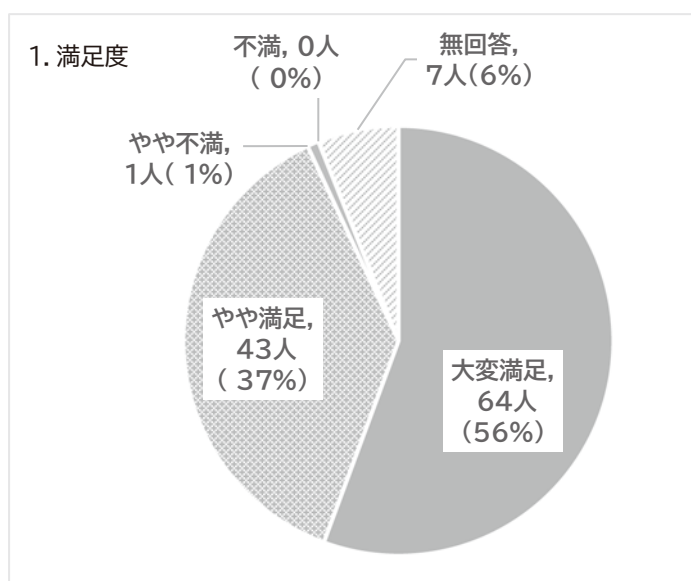
※各項目の自由記載欄の集計は主なものを抜粋

### 1. アンケート回答者の所属機関 内訳

所属	回答数	割合
自助グループ	47	40.9%
保健所	23	20.0%
市町村	9	7.8%
回復施設	8	7.0%
民間支援団体	7	6.1%
相談支援事業所	6	5.2%
司法機関・矯正施設	2	1.7%
その他	12	10.4%
未記入	1	0.9%
計	115	100.0%

### 2. 満足度

回答	回答数	割合
大変満足	64	55.7%
やや満足	43	37.4%
やや不満	1	0.9%
不満	0	0.0%
無回答	7	6.0%
計	115	100.0%



### 3. 顔の見える関係づくり（複数回答）

※全回答数の割合

回答	回答数	割合※
今まで知らなかった機関や団体、自助グループの人と知り会えた	82	71.3%
すでに知っている機関や団体、自助グループの人との関係がさらに深まった	40	34.8%
特に得られるものはなかった	0	0.0%
その他	2	1.7%
無回答	6	5.2%

#### 4. 感想など（主なものを抜粋、一部要約）

- ・ 支援者や当事者もみんな仲間という雰囲気だった。
- ・ あまり依存症の方、その家族の方のお話を聞く機会はないので、貴重な経験だった。
- ・ 他の自助グループの方の体験を聞くことが出来てよかった。
- ・ 複数の自助グループの交流が画期的
- ・ 相談機関や自助グループとつながりながら、回復されていく経緯がよくわかり、つながりの大切さを感じた。
- ・ 回復の可能性と、その結果得られるものについて話を聞くことができた。
- ・ 貴重な体験談から、回復の可能性のイメージが広がった。
- ・ いろんな自助グループの体験談が聞けたが、根本は同じだと思う。
- ・ 回復者の様子を知らずして支援はできないと思うので、人材育成としてもこの機会は必要。
- ・ 自助グループの効果を改めて感じました。支援者としてできること、丁寧に自助グループになぐと  
いうことに努めたいと思う。
- ・ 人とのつながり、仲間ができることで頑張っていけるということ、支援者としてオープンミーティングとかにもまた  
参加させていただきたいと思いました。
- ・ 回復のプロセスや自助グループにつながるまでの抵抗など、リアルにわかりよかったです。
- ・ 「自助の力」をあらためて考え、感じられた。それにつながる私の役割を確認した。
- ・ 「つながり」という言葉が印象に残っています。どこかにつながることが大事なことだと感じます。
- ・ 課題としては市町村の参加がなかったこと。市町村を巻き込んでネットワークができたらと思う。
- ・ 依存症と言う根底は一つであることを実感できた。「仲間」「孤独からの解放」等のキーワードは共通である。
- ・ 「依存症」を抱える方への考え方が変わりました。
- ・ 依存症という病気の本質は1つなので、共感が持てた。
- ・ ミニフォーラムを引き続き開催してほしい。
- ・ ミニフォーラムをもっと回数多く開催してほしい。



# 3 令和元年度 OAC ミニフォーラムについて

## I 開催に向けた準備

各地域での支援ネットワークの強化のためには市町村の様々な相談窓口の担当者との連携が必要であるが、平成 30 年度は市町村職員の参加が少なかった。このため、令和元年度は午前中に第一部を研修会、午後に第二部として交流会を設定し、市町村職員が参加しやすいよう、また依存症の知識を得てから体験談を聞いてもらえるような構成とした。なお、第一部は支援関係者を対象とし、自助グループの方には第二部交流会から参加をお願いした。

周知については、平成 30 年度と同様、大阪アディクションセンター加盟機関・団体、市町村の関係部署、自助グループに参加を呼び掛けた。

## II. 開催概要

### (1)開催状況

開催日	開催ブロック (二次医療圏)	開催場所	参加者数	
			第一部	第二部
11/20 (水)	東ブロック (北河内)	守口保健所	18 人	34 人
12/5 (木)	北ブロック (豊能、三島)	茨木保健所	33 人	43 人
12/11 (水)	南ブロック (泉州)	泉南府民 センタービル	22 人	38 人
12/19 (木)	中ブロック (中河内、南河内)	藤井寺保健所	26 人	30 人
計			99 人	145 人

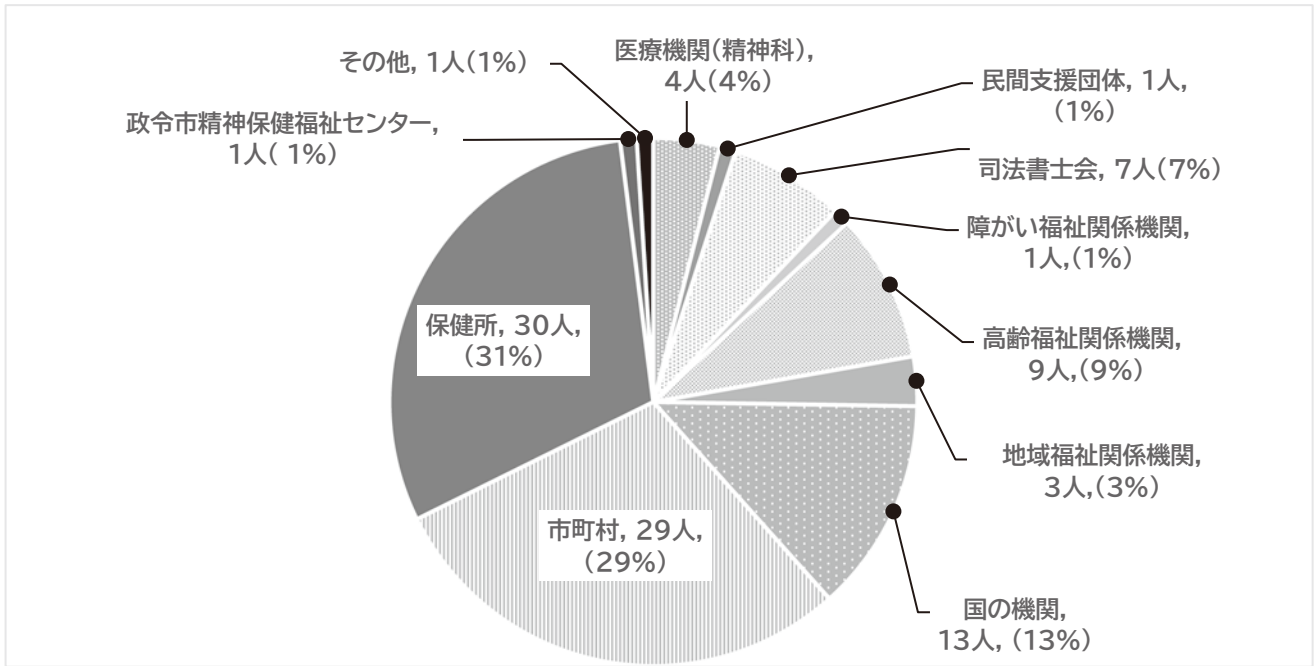
※政令市（大阪市、堺市）内の関係者は希望する回に参加

### (2)参加者の属性

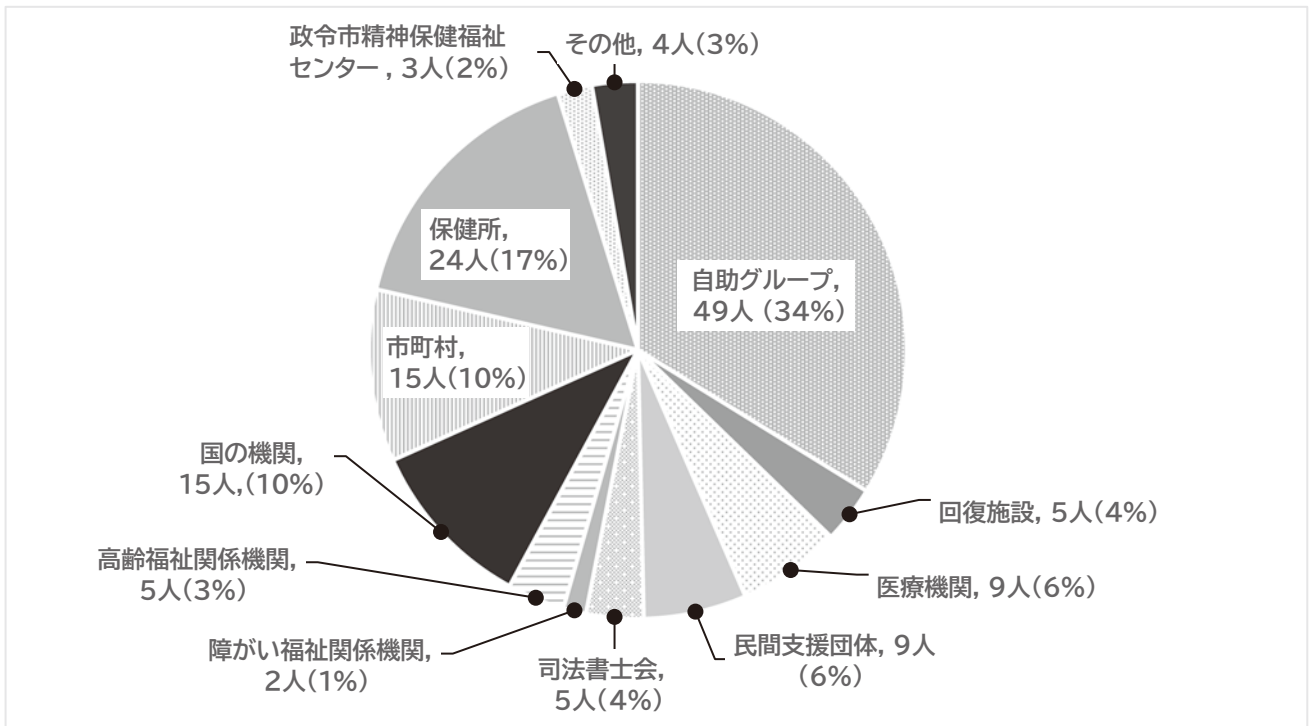
第一部は、保健所、市町村の参加者が併せて 6 割強で、他に国の機関（保護観察所、近畿厚生局麻薬取締部）、民間支援団体（債権債務関係団体）、精神科医療機関（依存症治療専門病院）、障がい福祉や高齢福祉関係機関（相談支援事業所、地域包括支援センター等）から参加があった。

第二部は、自助グループからの参加者が 3 割強となっており、その他には保健所、市町村、医療機関、司法書士会など、さまざまな機関・団体からの参加が得られた。





【図3-1】 令和元年度 OAC ミニフォーラム 第一部参加者属性



【図3-2】 令和元年度 OAC ミニフォーラム 第二部参加者属性

### (3)内 容(4ブロック共通)

#### 第一部 研修会

	内 容	時間
1	講義「依存症の基礎知識」 講師 依存症専門医療機関等の精神科医	60分
2	講義「依存症支援の視点を入れた借金に関する相談対応」 講師 大阪いちょうの会(大阪クレサラ・貧困被害をなくす会) 弁護士・司法書士	60分
3	質疑応答、意見交換会	20分
4	まとめ	—

#### 第二部 交流会

	内 容	時間
1	大阪府における依存症対策の説明	5分
2	ミニ講義「相談の受け方について」	20分
3	体験談（アルコール、薬物、ギャンブル等の各依存症 当事者3名、 家族1名）	15分× 4人
4	グループワーク・交流会	60分
5	各グループで出た意見を発表・共有	—
6	まとめ	—

第一部は研修会としたことで、市町村職員の参加が増えた。しかし、午前午後通しての参加は一日出張となるため、アンケートにも時間の長さを指摘する声があり、第一部の研修の部分のみ参加される方もおられた。

第二部では「ミニ講義」を入れ、依存症に関する相談対応で気を付けるべきポイントについて、当センター職員が説明した。体験談は平成30年度と同様で、アルコールや薬物、ギャンブル等

の各依存症の当事者の方3名と家族1名ずつの4名の方にご登壇いただいたが、毎回、参加者がうなずきながら聴く場面が多く見られた。

#### (4)アンケート結果

P16～17のとおり

#### (5)当日の様子など

今回も名札を着用していただき、名簿も参加者の了解を得た上で配布した。

グループワークでは、ファシリテーターの進行のもとテーマについて話したり、当事者や家族の方々への質問をしながら交流した。あるグループでは、自助グループの人が中心となり、「肯定」や「共感」について話合っていた。

また一方で、自分の思いがあふれ出て話が止まらなくなる方もおられ、他の参加者から話す時間を独り占めしないでほしいという声もあり、最初に参加のルールやマナーを伝えることが必要であると思われた。



第一部の様子



第二部 体験談発表時の様子

## 令和元年度OACミニフォーラムアンケート結果

参加者数：第一部 99 人 第二部 145 人

アンケート回答数：第一部 87 人（回答率 87.9%） 第二部 133 人（回答率 98.5%）

※各項目の自由記載欄の集計は主なものを抜粋

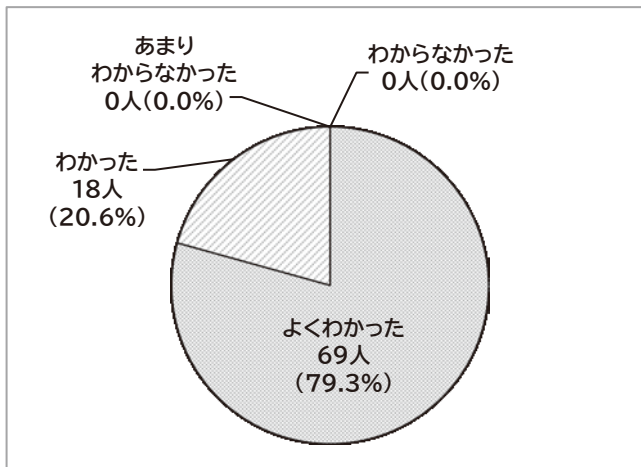
### アンケート回答者の所属機関 内訳

第一部	回答数	割合
保健所	22	25.3%
市町村	26	29.9%
医療機関	4	4.6%
国の行政機関	12	13.8%
相談支援事業所	6	6.9%
回復施設	0	0.0%
民間支援団体	1	1.1%
その他	13	15.0%
無回答	3	3.4%
計	87	100.0%

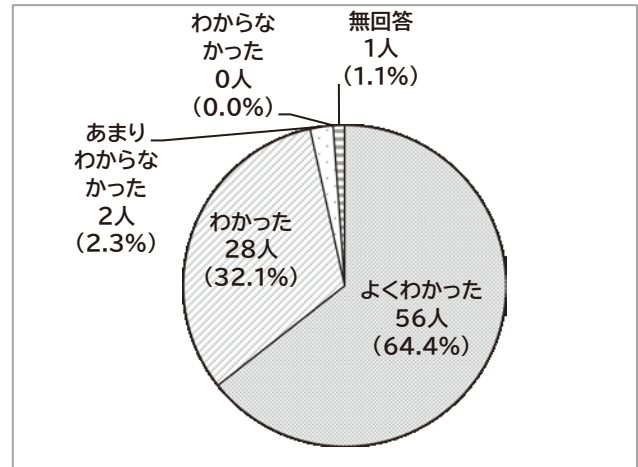
第二部	回答数	割合
保健所	27	20.3%
市町村	16	12.0%
医療機関	8	6.0%
国の行政機関	14	10.5%
相談支援事業所	3	2.3%
回復施設	3	2.3%
民間支援団体	6	4.5%
自助グループ	39	29.3%
その他	17	12.8%
無回答	0	0.0%
計	133	100.0%

### 【第一部】

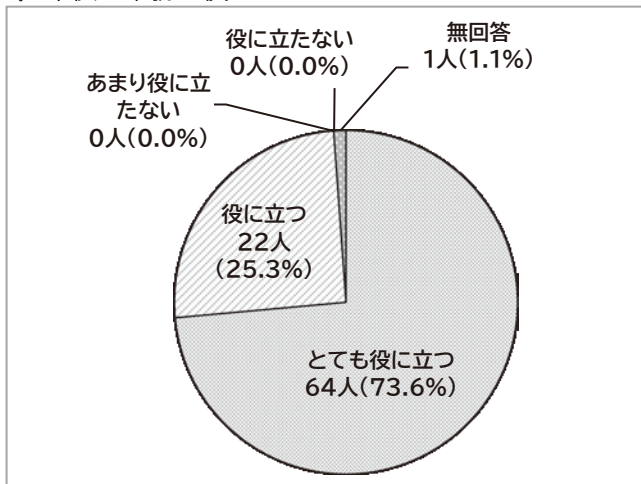
#### 1. 依存症の基礎知識について【理解度】



#### 2. 借金の基礎知識について【理解度】



#### 3. 今後の業務に役立つか

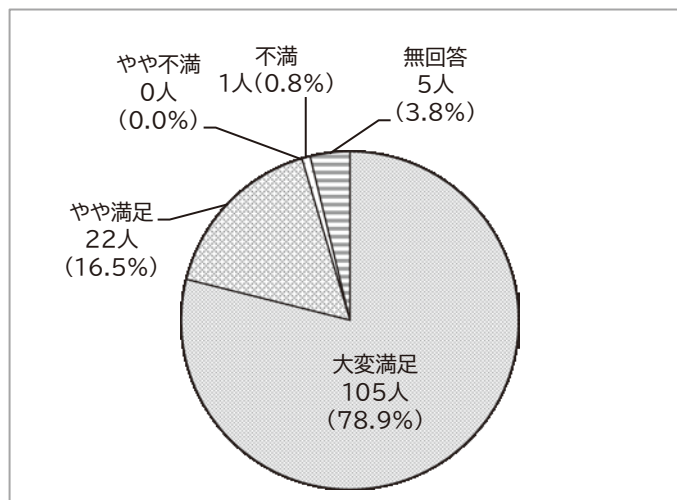


#### 【自由記載】（主なものを抜粋、一部要約）

- ・ 本人の背景を把握できるよう関わりたい。
- ・ 依存症の方の自殺率の高さに驚いた。
- ・ 司法書士の方の話聞く機会は貴重だった
- ・ 法律系の相談は苦手意識があったが、分かりやすい内容で少しやわらいだ
- ・ 借金の整理だけでなく、根っこの問題に取り組むことが必要だとわかった

## 【第二部】

### 1. 満足度



#### 【自由記載】（主なものを抜粋、一部要約）

- ・さまざまな依存症の方の体験談を聞いてよかった。
- ・当事者、支援者のお互いの思いを共有でき、一緒に考えることができた。
- ・他機関、他分野の方と意見交換をすることができた。当事者の声を聞くことができた。
- ・さまざまな依存症の自助グループがあることを知ることができた。

### 2. 顔の見える関係づくり（複数回答）

※第二部 全回答数の割合

回答	回答数	割合※
今まで知らなかった機関や団体、自助グループの人と知り会えた	107	80.5%
すでに知っている機関や団体、自助グループの人との関係がさらに深まった	43	32.3%
特に得られるものはなかった	2	0.1%
その他	1	0.1%
無回答	2	0.1%

### 3. 感想など（主なものを抜粋、一部要約）

- ・さまざまな依存症の方の体験談を聞いてよかった。
- ・当事者、支援者のお互いの思いを共有でき、一緒に考えることができた。
- ・他機関、他分野の方と意見交換をすることができた。当事者の声を聞くことができた。
- ・さまざまな依存症の自助グループがあることを知ることができた。
- ・自助グループに、まず自分が行こうと思った。
- ・さまざまな依存を同時に取り上げていたのがよかった。根っこは同じだと思った。
- ・（自分の所属の）他のメンバーにも経験してほしい。
- ・昨年よりも幅広い機関の人と接することができた。
- ・前回よりも参加している機関が増えた。
- ・交流の時間はもっとほしい。
- ・1日は（仕事の）調整が大変。次回は場所を変えてやってほしい。
- ・地域ごとでOACミニフォーラムをした方がいい。
- ・家族の体験談を増やす。
- ・ミニフォーラムを続けてほしい。



## 4 令和3年度 OAC ミニフォーラムについて

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大によりミニフォーラムの開催ができなかったが、大阪アディクションセンター加盟機関・団体の方々から開催を希望する声があり、令和3年度はオンラインで開催した。

### I 開催に向けた準備

オンライン会議システム、Webカメラなどの準備を行った。また、オンライン会議に参加できる環境を持っておられない方のために、当センターに機材を用意し、希望者は当センターにて参加していただいた。

参加の呼びかけは、これまでと同様、大阪アディクションセンター加盟機関・団体をはじめ、市町村や自助グループへ周知を行い、参加を募った。

### II. 開催概要

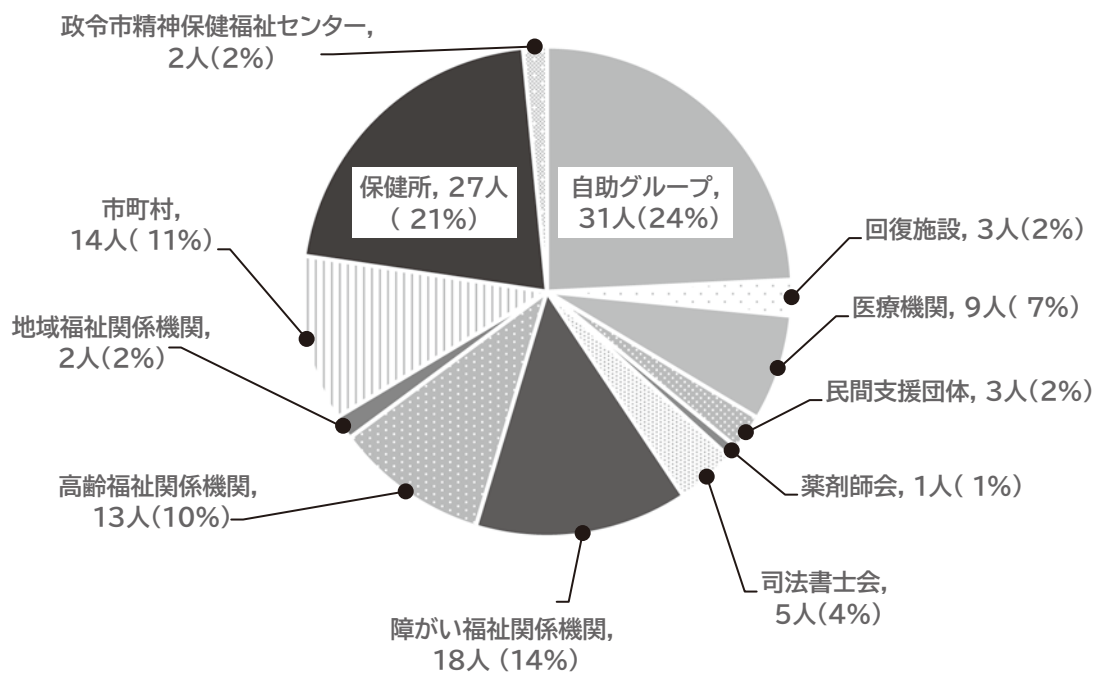
#### (1)開催状況

開催日	開催ブロック（二次医療圏）	参加者数
12/8 (水)	中ブロック（中河内・南河内）	28人
12/20 (月)	東ブロック（北河内）	37人
1/24 (月)	北ブロック（豊能・三島）	41人
1/28 (金)	南ブロック（泉州）	22人
	計	128人

※政令市（大阪市、堺市）内の関係者は希望する回に参加

#### (2)参加者の属性

オンラインということで自助グループからの参加者が過去2か年より少なくなったが、移動時間がかからず、職場から完全に離れなくても参加できるという負担の軽さもあり、市町村や地域包括支援センターなど高齢関係機関からの参加が増えた。一方で、セキュリティの問題等もあり、国の機関からの参加が得られなかった。



【図4-1 令和3年度参加者属性】

### (3)内容(4ブロック共通)

	内 容	時 間
	オリエンテーション 参加ルールの説明	—
1	ミニ講義「支援者のこころ構え」と 大阪アディクションセンターについて説明	20分
2	体験談（アルコール、薬物、ギャンブル等の各依存症の当事者3名、 家族 1名）	20分× 4人
3	グループワーク・交流会 自己紹介 ①所属・名前 ②自分のセールスポイント テーマ：「自助グループにつながってよかったこと」 (当事者・家族) 「依存症の方や家族への支援で感じていること」 (支援者)	40分
4	各グループで出た意見を発表・共有	—
5	感想の共有	—
6	情報共有コーナー (参加者所属機関・団体のイベントの周知など)	—

内容は令和元年度とほぼ同様とし、体験談もオンラインでの発表に御協力いただける方をお願いをした。また今回はオンラインであり、聞き手の反応がわかりにくく話しづらいことが考えられたため、体験談をお話いただく方については、なるべく当センターに来ていただいた。

グループワークでは、参加者をグループごとにブレイクアウトルームに分けて交流し、ファシリテーターとして当センター職員が各グループに入って進行した。

グループワーク後は全員メインルームに戻り、数人に感想を述べていただき、最後に参加者の所属が主催されるイベントや、PRなどの時間をとった。

#### **(4)アンケート結果**

P21～22のとおり

#### **(5)当日の様子など**

今回は名札代わりに、各参加者の顔が出ているところの名前を、「名前 所属」と各自表記をお願いした。また、参加者の所属名のみ記載した一覧をPDFにして事前に送付した。

オンライン開催ということで、対面で交流していた例年のミニフォーラムとは雰囲気は全く異なっており、オンラインの特性上、発言が一方通行になりがちで、特に初対面の方同士の交流には難しい点も見られた。しかしながら、長いコロナ禍で対面での接触が制限される中、回復を願う人たちが集まり、お互いに頑張っていることを確認し合えた点では、オンライン開催の意義があったと考えられる。



## 令和3年度 OAC ミニフォーラム（オンライン）アンケート結果

参加者数：128名

アンケート回答数：69名（回収率 54%）

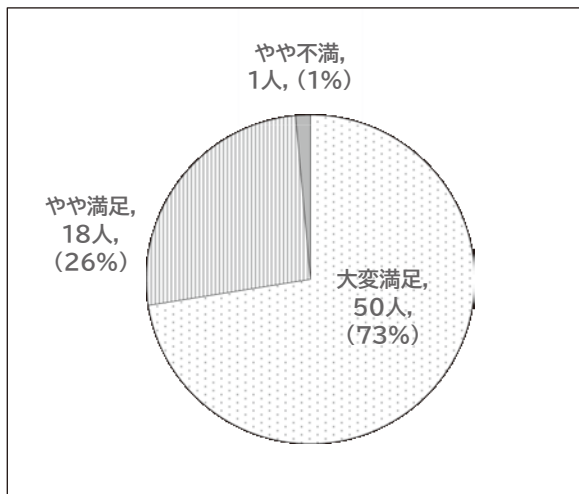
※各項目の自由記載欄の集計は主なものを抜粋

### 1. アンケート回答者の所属機関 内訳

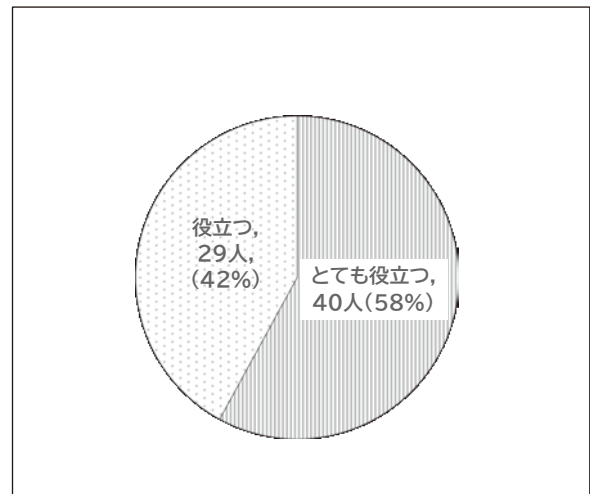
所属機関	参加者数	割合
保健所	27	21.1%
市町村	12	9.4%
政令市	4	3.1%
医療機関	9	7.0%
相談支援事業所	10	7.8%
居宅介護支援事業所	7	5.5%
就労移行支援事業所	1	0.8%

所属機関	参加者数	割合
社会福祉協議会	2	1.6%
地域包括支援センター	13	10.2%
薬剤師会	1	0.8%
司法書士会	5	3.9%
回復施設	3	2.3%
民間支援団体	3	2.3%
自助グループ	31	24.2%
計	128	100.0%

### 2. 満足度について



### 3. 連携に役立つか



### 4. 顔の見える関係づくりについて（複数回答）

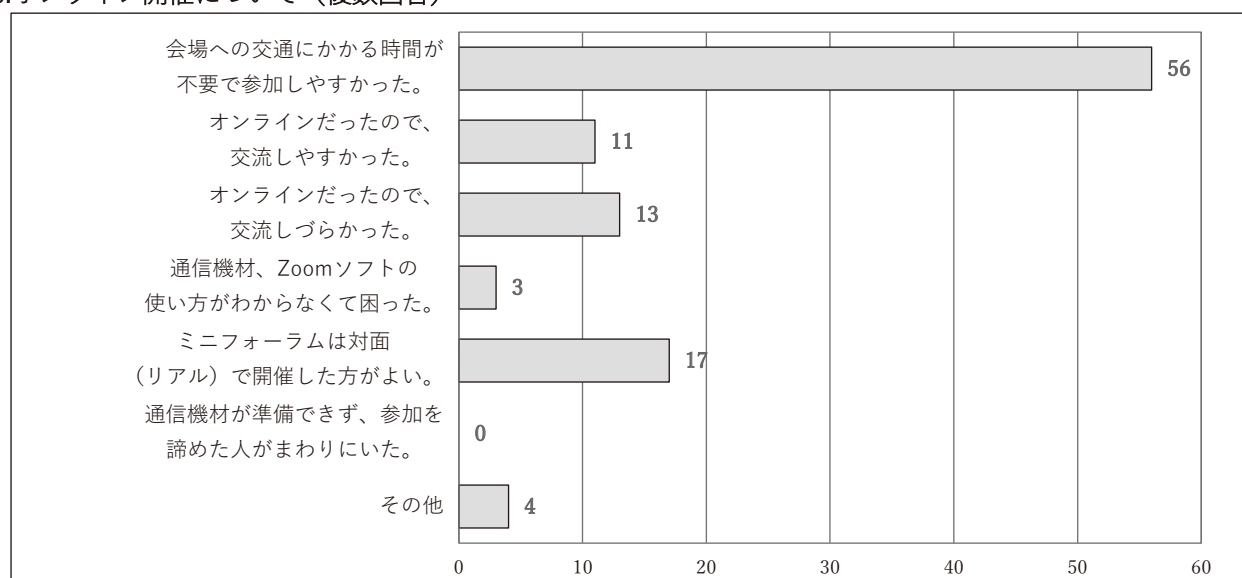
※全回答数の割合

回答	回答数	割合※
今まで知らなかった機関や団体、自助グループの人と知り合えた	50	72.5%
すで知っている機関や団体、自助グループの人との関係がさらに深まった	18	26.0%
特に得られるものはなかった	0	0%
その他	4	5.7%

### 【自由記載】（主なものを抜粋、一部要約）

- ・業務内容について理解が深まった。
- ・色々な自助グループの話が聞けた。
- ・直接体験談を聞くことで、依存症に対するイメージが変化した。
- ・当事者の方々の生の声を聴くことができたのは当然ですが、当事者を支援する方々の立場からの意見も多くとても参考になりました。
- ・当事者、家族の体験談をきくことが重要と再認識した。自分が自助グループを相談者へ提案する時に説得力が増す。
- ・体験談のお話を聞くことは勉強になりますし、回復のイメージを自身も持つことができるので、普段の支援にも励みになります。
- ・グループワークでは時間が足りず、全体的に話さきれなかったですが、他機関の方のお話や思っていることをきくことができ参考になりました。
- ・体験談がとてもよかった。いろんな立場の体験談を一度に聞くことができる機会はとても貴重だと思う。ただ、オンラインでの開催で、体験談がどう他の参加者に伝わったかが感想の共有ではよくわからなかった。横の連携を考えると、もっといろんな参加者とリアルで意見を交換したいと思った。

### 5.オンライン開催について（複数回答）



### 6.感想など（主なものを抜粋、一部要約）

- ・当事者、家族の体験談を聞くことで、回復のイメージを持つことができた。
- ・治療や自助グループにつながることの大切さを理解すると同時に、つながり続けることの難しさを感じた。
- ・様々な立場で経験や意見を交換することができ、とても刺激になった。
- ・関係機関の方と顔が見える状況で交流ができ、よかった。
- ・相談できる場を知り、様々な介入方法を考えることができた。
- ・グループワークの時間がもっとあればよかった。
- ・体験談への反応や交流した感覚が、対面時よりも少なく、オンラインでの難しさを感じた。
- ・コロナが落ち着いたら、対面で開催してほしい。
- ・他の地域の人のお話も聞いてみたい。

## 5 令和4年度 OAC ミニフォーラムについて

### I 概要

#### (1)各地域のネットワーク形成に向けて

これまでも記述しているとおり、大阪アクションセンターは大阪府全域のネットワークであるが、実際に依存症のことで困っている当事者や家族を支援するためのネットワークとしては大きすぎるという課題がある。このため、保健所圏域単位のネットワークの形成に向けて、令和4年度からは保健所等（政令市は精神保健福祉センター等）が主催者となり、各保健所圏域や複数保健所の合同開催（ブロック単位）とし、当センターはその運営にあたっての助言や支援を希望する保健所等に実施した。

なお、名称については OAC ミニフォーラムとしているところもあるが、地域交流会などの名称を使用するなど、各保健所等が地域の状況に合わせて設定している。

#### (2)開催状況

令和4年度は各地域で以下のとおりミニフォーラムが開催された。なお、藤井寺保健所、岸和田保健所、東ブロック保健所、北ブロック保健所主催分については、詳細を P26 から掲載する。

開催日・主催	内 容
7/19 (火) 大阪府和泉保健所	<u>「和泉保健所管内依存症支援関係者地域交流会」</u> (1) 講義「依存症についての基礎知識」 講師：依存症専門医療機関 医師 (2) 体験談 アルコール、薬物、ギャンブル等の各依存症の当事者3名 (3) グループワーク テーマ：「回復」について思うこと (4) 自助グループ、回復施設の紹介
10/27 (木) 大阪府藤井寺保健所	<u>「OAC 地域交流会（ミニフォーラム） in 藤井寺」</u> (1) 講義「依存症の理解と相談を受ける際のポイント」 大阪府こころの健康総合センター 相談支援・依存症対策課職員 (2) 体験談 アルコール、薬物、ギャンブル等の各依存症の当事者3名 (3) 自助グループの紹介 (4) グループワーク テーマ：私達が依存症者や家族支援でできそうなこと

開催日・主催	内 容
11/2 (水) 大阪府岸和田保健所	<u>「岸和田保健所管内 OAC ミニフォーラム」</u> (1) 令和 2 年度南ブロック依存症等調査報告 (2) 講義「依存症について～どんな病気、回復への道のりは?～」 講師：依存症専門医療機関 医師 (3) 体験談、団体紹介 アルコール依存症 当事者 1 名、薬物依存症 家族 1 名 (4) グループワーク テーマ：自分の所属・立場でできそうなこと 講義や体験談の感想共有
11/4 (金) 大阪市こころの健康 センター	<u>「OAC ミニフォーラム」</u> (1) 依存症専門医による講義 (2) 体験談 アルコール、薬物、ギャンブル等の各依存症の当事者 3 名 家族の体験談（ギャンブル等依存症） (3) 交流会（ワールドカフェ形式） テーマ：自分が明日からできること
11/21 (月) 大阪府富田林保健所	<u>「令和 4 年度 依存症支援関係者地域交流会（OAC ミニフォーラム）～依存症の基礎知識と自助グループの活動紹介～」</u> (1) 講義 「依存症の基礎知識」・「OAC について」 大阪府こころの健康総合センター 相談支援・依存症対策課職員 (2) 体験談 アルコール依存症 当事者 (3) 自助グループの活動紹介 (4) 質疑応答・意見交換
12/2 (金) 東ブロック保健所 合同開催 ・大阪府守口保健所 ・大阪府四條畷保健所 ・枚方市保健所 ・寝屋川市保健所	<u>「東ブロック OAC ミニフォーラム」</u> (1) 「OAC について」「依存症相談における家族支援」について 大阪府こころの健康総合センター 相談支援・依存症対策課職員 (2) 体験談 アルコール、薬物、ギャンブル等の各依存症の当事者 3 名 家族（アルコール依存症） 1 名 (3) グループワーク テーマ：支援機関との連携や支援機関へのつなぎ方について

開催日・主催	内 容
<p>1/23 (月)</p> <p>北ブロック保健所 合同開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府池田保健所</li> <li>・大阪府茨木保健所</li> <li>・高槻市保健所</li> <li>・豊中市保健所</li> <li>・吹田市保健所</li> </ul>	<p><u>「北ブロック OAC ミニフォーラム」</u></p> <p>(1) 講義「依存症の基礎知識」 講師：依存症専門医療機関 ソーシャルワーカー</p> <p>(2) 体験談 アルコール、薬物、ギャンブル等の各依存症の当事者 3名 家族（アルコール依存症） 1名</p> <p>(3) グループワーク テーマ：自助グループや関係機関とのつながりについて</p>
<p>1/31 (火)</p> <p>堺市精神保健課</p>	<p><u>堺市域版 OAC ミニフォーラム～支援者もひとりやないさかい 相談してな～つながろう！依存症支援の輪</u></p> <p>(1) 説明「堺市の依存症支援体制について」 堺市精神保健課職員</p> <p>(2) 講演「依存症の基礎知識」 講師：精神科クリニック医師</p> <p>(3) 体験談 薬物依存症当事者 1名 ギャンブル等依存症当事者 1名 家族（アルコール依存症）1名</p> <p>(4) 交流会</p>
<p>1/31 (火)</p> <p>大阪府泉佐野保健所</p>	<p><u>「依存症支援関係者地域交流会 OAC ミニフォーラム 泉佐野」</u></p> <p>(1) ミニ講話「依存症の回復に向けて」 講師：依存症専門医療機関 ソーシャルワーカー</p> <p>(2) 体験談 アルコール、薬物、ギャンブル等の各依存症の当事者 3名</p> <p>(3) グループワーク・交流会 講義や体験談の感想など</p> <p>(4) 参加機関・団体紹介</p>

## 「OAC地域交流会(ミニフォーラム)in 藤井寺」



主催：大阪府藤井寺保健所

管内市町村：藤井寺市・羽曳野市・松原市・柏原市

報告：藤井寺保健所 精神保健福祉チーム

日 時	令和4年10月27日(木) 14:00~16:30
場 所	大阪府藤井寺保健所 2階 講堂
開催方法	保健所単独開催
周知対象	管内市の障がい福祉、保健、児童・高齢福祉、人権、消費生活センター、生活保護、生活困窮者支援等の担当課職員(地域包括支援センター、CSW含む)、医療機関職員、相談支援機関職員、自助グループメンバー、OAC加盟機関・団体の実務担当者等
参加人数	22人 (内訳) 依存症の本人7人、依存症の家族3人、相談支援事業所4人 市職員7人、地域包括支援センター・CSW1人
周知方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>管内市の障がい福祉担当課に連絡し、趣旨説明をした上で日程調整を行った。併せて、人権、消費生活センター、生活保護、生活困窮者支援の担当課を紹介してもらい、開催通知を送付した。</li> <li>管内で活動する自助グループに連絡し、趣旨説明をした上で参加を呼び掛けると共に、体験談発表や自助グループの紹介を依頼した。管内にグループがないところは、こころの健康総合センターから紹介してもらった。</li> <li>併せて、自助グループのミーティングや研修会への参加、電話やメールでのやりとり継続、保健所のチーム会議に自助グループを招いて交流する機会を作る等により、保健所をより身近な機関と感じてもらえるよう工夫した。</li> </ul>
内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>講義「依存症の理解と相談を受ける際のポイント」 講師：大阪府こころの健康総合センター 相談支援・依存症対策課職員</li> <li>依存症の本人・家族による体験談 発表者：アルコール依存症(当事者) 薬物依存症(当事者) ギャンブル等依存症(当事者)</li> <li>自助グループの紹介 発表者：アルコール依存症(当事者、女性グループ、家族) 薬物依存症(当事者) ギャンブル等依存症(当事者、家族)</li> </ol>

	<p>4 グループワーク・交流会          テーマ：「私達が依存症者や家族支援でできそうなこと」</p> <p>5 まとめ</p>
<p>アンケート          結果の概要          参加者の          感想</p>	<p>回答者数：21名 回答率 95%</p> <p><b>【感想】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・依存症で苦しむ本人の体験談、家族が抱える悩み等について生の声を聞けて貴重な機会になった。参加できたことに感謝。</li> <li>・依存症の回復に色々な方が関わっていることを実感できて良かった。一人の力で回復している訳ではないと感謝の気持ちになった。</li> <li>・普段は窓口対応や事務をしているだけなので、当事者の話は勉強になった。</li> </ul> <p><b>【最も印象に残ったこと】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰でも依存症になる可能性があるということ。</li> <li>・依存の苦しさを共有できる仲間がいることの必要性がよくわかった。自助グループのことをもっと知り、助けを必要とする方へ届けたい。</li> <li>・当事者の「相談することは弱みを見せること」という言葉。心にとめて相談を受ける必要があると改めて思った。当事者同士の距離感も大事。</li> </ul> <p><b>【今後の交流会に期待すること】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も定期的に開催してほしい。継続的にやってほしい。</li> <li>・家族の体験談を聞きたい。</li> <li>・グループワーク時間を増やしてほしい。もう少し時間にゆとりがほしい。</li> </ul>
<p>所感・考察等</p>	<p>当初予定していた時期に新型コロナウイルスの感染拡大があり、交流会の趣旨から Web ではなく対面にこだわったため開催を延期した。また、当初は OAC 加盟機関・団体にも参加を呼び掛ける予定だったが、感染防止対策により定員を制限せざるをえなかったため、管内からの参加者を優先したことから、管外からの参加者を募ることができなかった。</p> <p>グループワークや終了後の交流で日頃感じている疑問や悩みを本人や家族と直接やり取りでき、満足感が高かったと思う。体験談を聞いて涙ぐむ人もいた。顔見知りになったことで自助グループや関係機関がより身近に感じられ、業務の中で相談者を繋ぐ機会が増えたり、気軽に相談するようになった。</p> <p>アンケートでは継続開催の希望が多数あった。担当自身も準備を進める中で、もっと本人や家族の“生の声”を聞いてもらいたい、イメージや想像ではなく、直接やり取りして正しく知ってほしいという思いが強くなった。</p> <p>今後も、各機関の取り組みの共有と支援者同士の顔の見える関係作りを通して、切れ目のない回復支援体制の強化を目指し、継続して開催できればと思う。</p> <p>その際は、家族の体験談を取り入れる、グループワークのテーマ設定や進め方を工夫する、時間配分の検討等をしていけたらと考えている。</p>



藤井寺保健所主催交流会の様子



## 「岸和田保健管内 OAC ミニフォーラム」

主 催：大阪府岸和田保健所

管内市町村：岸和田市・貝塚市

報告：大阪府岸和田保健所 精神保健福祉チーム



日 時	令和4年11月2日(水) 午後2時から4時まで
場 所	南海浪切ホール 多目的ホール
開催方法	保健所単独開催
周知対象	岸和田保健所管内関係機関職員・OAC加盟機関、団体の実務者
参加人数	23人 (内訳) 医療機関5人、市3人、社会福祉協議会2人、相談支援事業所2人、自助グループ5人、民間支援団体1人、その他5人
周知方法	メール、郵送等の周知に加えて、保健所主催会議で参加を呼びかけた。自助グループの方と会う機会に周知を行った。
内 容	(1) 令和2年度南ブロック依存症等調査報告 (5分) (2) 講義「依存症について～どんな病気、回復への道のりは?～」(30分) 講師：医療法人和気会 新生会病院 院長 和気 浩三 氏 (3) 紹介「回復って?自助グループってどんなところ?」 体験談…本人(アルコール依存症)、家族(薬物依存症)(10分×2人=20分) 団体紹介…自助グループ(アルコール依存症・当事者、薬物依存症・家族、ギャンブル等依存症・家族) (参加団体数3×5分=15分) (4) グループワーク (20分) (5) 講師による総評 (5分)
アンケート 結果の概要	回答者数：23件、回答率100%
参加者の 感想	<b>【満足度について】</b> 大変満足96%(22件) やや満足4%(1件) <b>【効果】</b> 今まで知らなかった機関や団体、自助グループの人と知り合えた…21件 すでに知っている機関や団体、自助グループの人との関係がさらに深まった…8件 支援に役立つかについて とても役立つ61%(14件) 役立つ39%(9件)

	<p><b>【感想（抜粋）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義だけではなく、お互いの話ができただけで良かった。</li> <li>・ 話しやすい空気感でとても参加しやすい研修だった。</li> <li>・ 基礎知識から当事者の体験談まで盛りだくさんで非常に勉強になった。</li> <li>・ もう少しグループワークの時間があれば良かった。</li> <li>・ 回数を増やして開催してほしい。</li> </ul>
所感・考察等	<p><b>【良かった点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健所圏域で実施したことで、身近な顔見知りの関係づくりに役立ったかもしれない。普段から機関名くらいは知っている機関同士の担当者の顔合わせになった。</li> <li>・ 参加者の4割が依存症研修の参加が初めてだと言うことを冒頭に共有することで「みんなで知って支援に役立てよう」という雰囲気になりやすかった。</li> <li>・ 依存症の基礎知識、体験談、グループワークという組み立てにしたため、参加者が依存症へのスタンスを知り、自分だったらどう支援するか、関係機関と連携するかを考える機会となった。</li> <li>・ なかなか見学、問い合わせをする機会がない自助グループ等の活動を知ることによって今後の支援に役立てられそうとの声が聞かれた。</li> </ul> <p><b>【課題に感じたこと】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍での開催のため2時間で実施し、グループワークの時間が20分程度と短く、物足りないと感じた参加者もいた。顔の見える関係づくりのためにはお互いの機関の役割を知ることが重要であるが十分な対面での会話の時間が確保できなかったため、コロナの感染防止対策との両立の難しさを感じた。</li> <li>・ コロナの感染防止対策のために広い会場が必要だが、保健所や市の広い会場は他事業と重なることが多く、使用料のかかる会場で実施することになった。</li> </ul> <p><b>【今後の展望】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ OAC ミニフォーラムの名称を使っていくのであれば、OAC のイメージ図の説明を入れてもいいかもしれない。</li> <li>・ 保健所管内で活動しているところだけでなく、より多くの自助グループ、回復支援団体を紹介する機会を持ちたい。</li> <li>・ 継続して開催していくことで地域版 OAC が深まるのではないかと思った。</li> </ul>



岸和田保健所主催交流会 講義の様子



岸和田保健所主催交流会 体験談の様子

## 「東ブロック OAC ミニフォーラム」

主催：東ブロック保健所（大阪府守口保健所、大阪府四條畷保健所、  
枚方市保健所、寝屋川市保健所）

管内市町村：守口市、門真市、四條畷市、大東市、交野市、枚方市、寝屋川市

報告：枚方市保健所 精神保健福祉担当

守口保健所  
四條畷保健所  
枚方市保健所  
寝屋川市保健所



日時	令和4年12月2日（金） 午後2時から5時まで
場所	大阪府守口保健所
開催 主体	東ブロック保健所共催（大阪府守口保健所・大阪府四條畷保健所・枚方市保健所・ 寝屋川市保健所の共催）
周知対象	依存症支援に取り組んでいる又は関心がある関係機関職員 依存症の自助グループに所属しているご本人・ご家族
参加人数	39人 （内訳） 行政機関5（子育て、生活保護）、医療機関1、障がい者関係支援機関9、 地域包括1、社協3、生活困窮支援機関2、依存症回復施設2、 自助グループ15、その他1
周知方法	・OAC メーリングリストを活用 ・各ブロック保健所より関係機関にチラシを配布した
内容	<b>【第1部：講義（関係機関職員向け）】</b> 「依存症相談における家族支援」 事例を通じた関わり方や支援のタイミングについて  <b>【第2部：交流】</b> ○アルコール・薬物・ギャンブル等依存症のご本人とご家族による体験談 ○グループワーク 回復の道筋の中でできること 支援機関との連携や支援機関への繋ぎ方について
アンケート 結果の概要	回答者数：35件 回答率：89.7%
参加者の 感想	<b>【第1部：講義について】</b> とても参考になった：22名 参考になった：11名 あまり参考にならなかった・参考にならなかった：0名 参加していない：1名 記載なし：1名  ☆感想 ○当事者だけの集まりである自助グループで活動しているため、家族の方とかかわ る機会がほとんどなく、新鮮なお話でした。自助グループでは家族から見捨てら

アンケート 結果の概要	<p>れてやっと回復を始めるという人も多いです。何が本人の助けになるかはいつも考えさせられます。</p>
参加者の 感想	<p>○CRAFTに興味を持ちました。勉強していきたいです。</p> <p>○家族の方からの相談が多いので、とても参考になりました。時々ハッとさせることもあり、反省しつつ支援を続けていきたいです。</p> <p><b>【第2部：講義】</b> グループワーク「支援機関との連携」について</p> <p>①支援機関へのつなぎ方のイメージが持てた 20名</p> <p>②支援機関へのつなぎ方のイメージが少し持てた 9名</p> <p>③支援機関へのつなぎ方のイメージがあまり持てなかった 4名</p> <p>④支援機関へのつなぎ方のイメージは持てなかった 0名</p> <p>※記載なし・早退された方 2名</p> <p><b>【最後に】</b> 本日のミニフォーラムについて</p> <p>①今まで知らなかった機関や団体、自助グループの人と知り合えた 21名</p> <p>②既に知っている機関や団体、自助グループの人との関係がさらに深まった 6名</p> <p>③その他</p> <p>知り合えたまでとは言えない。／ 様々な機関があることを知ることができた。多様な依存の実態とそれを乗り越えた経験は勉強になりました。</p> <p>☆感想</p> <p>○体験談がすごく参考になりました。具体的な例の方が身になります。時間の問題のせいか各団体の活動内容がみえてこなかった。また、このような機会があればぜひ参加したい。</p> <p>○当グループのメンバーにもぜひスピーチさせてください。早めにオフィスにご依頼いただければ、女性や若い人、高齢の人といった要望にも対応できると思います。地元で活動する当事者として連携を深めていきたいと思います。最後にこのような機会を設けていただき、ありがとうございました。</p> <p>○断酒会の方のお話がとても参考になりました。初めて聴くことばかりで勉強になりました。</p> <p>○断酒会の方などのお話を伺い、人とのつながり、居場所、何か活動をすることの大切さを痛感しました。本日はありがとうございました。</p> <p>○依存症が本人の悩みや問題視されていない場合のアプローチ法が知りたいです。</p> <p>○いろいろな体験談が聞けて良かった。境界線の難しさを改めて思いました。アイメッセージを伝えていきたい。</p> <p>○支援者同士、顔が見える関係を築くことは、とても大切だと思います。OACミニフォーラムには、今後も参加させていただきます。ありがとうございました。</p> <p>○当事者の方の話を聞く事が非常に貴重な知識になった。どういう過程を経て支援</p>

	<p>につながるのかをもっと知りたいと思いました。</p> <p>○今後も依存症を含め、支援機関と当事者（家族も含めて）の交流勉強会があればよいと思う。</p>
<p>所感・考察等</p>	<p>○東ブロック共同での OAC ミニフォーラム実施はコロナ禍前であったので、集ってくださった皆様と共に学び、グループワークで意見を交わすことで、依存症への関心の高さをひしひしと感じた。</p> <p>○支援者としても、当事者の皆さんの語りに改めて学びながら、一方でコロナ禍を経て日々努力を重ねておられる当事者の方や、試行錯誤しながらも、少しでも当事者の方の生きづらさをやわらげ、支援を重ねていこうとされている方にお会いしてお話をする中で、逆に元気を頂いたような気がした。</p> <p>○保健所職員としても、コロナ禍で思ったような事業を行うこと自体が難しくなった時期を経ての OAC ミニフォーラムであったので、他保健所の精神保健担当者 と協力しながら事業を実施することがとても新鮮であり、職員としてもとても楽しく実施することができた。</p> <p>○今回のフォーラム内でも話されていたが、様々な自助グループの方から、「ぜひスピーチをしたいです。」といった申し出があった。また、出席者からも、このようなフォーラムを実施してほしいとお声をたくさんいただいた。当ブロックの特徴を踏まえつつ、引き続き実施方法などを検討し、実施を検討したい。</p> <p>○ブロックでの開催とすることで、ひとつの保健所管内だけでは関わりのなかった機関への呼びかけができたり、運営のアイデアを共有できたりしたので、今後も継続しやすいのではないかと感じた。</p>

## 「北ブロック OAC ミニフォーラム」

池田保健所  
茨木保健所  
高槻市保健所  
豊中市保健所  
吹田市保健所



主 催：北ブロック保健所（大阪府池田保健所、大阪府茨木保健所、  
高槻市保健所、豊中市保健所、吹田市保健所）

管内市町村：池田市、箕面市、能勢町、豊能町、茨木市、摂津市、島本町、  
高槻市、豊中市、吹田市

報告：大阪府茨木保健所 精神保健福祉チーム

日 時	令和5年1月23日（月） 午後1時30分から4時30分まで
場 所	大阪府茨木保健所
開 催 方 法	ブロック開催（大阪府池田保健所・大阪府茨木保健所・豊中市保健所・吹田市保健所・高槻市保健所の共催）
周知対象	北ブロック保健所管内の依存症の問題で悩む本人・家族の支援に関わっている、 または関心がある関係機関職員 北ブロック保健所管内の自助グループに所属しているご本人・ご家族等
参加人数	47人 （内訳） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自助グループ（アルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル等依存症のご本人・ご家族） 14名</li> <li>・ OAC加盟機関（民間支援団体等） 2名</li> <li>・ 市町職員（保健・福祉・生活困窮・生活保護） 10名</li> <li>・ 社会福祉協議会 4名</li> <li>・ 障がい福祉サービス事業所 8名</li> <li>・ 地域包括支援センター 5名</li> <li>・ 放課後等デイサービス 1名</li> <li>・ 医療機関 3名</li> </ul>
周知方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各保健所から、管内の関係機関に周知した。方法としては郵送や特に参加をお願いしたい場合は電話等で参加を促した。</li> <li>・ OAC加盟機関には、メーリングリストで周知した。</li> <li>・ 自助グループについては、こころの健康総合センターにも協力を得て事務局に依頼するとともに、各グループに直接参加を呼び掛けた。</li> </ul>

<p>内 容</p>	<p>開 会 大阪アディクションセンター（OAC）について</p> <p>第1部 講 義 「依存症の基礎知識について」</p> <p>①講 師 特定医療法人 大阪精神医学研究所 新阿武山病院 精神保健福祉士 亀ノ上 美郷 氏</p> <p>第2部 依存症のご本人・ご家族による体験談</p> <p>アルコール依存症のご本人・ご家族・・・自助グループ 薬物依存症のご本人・・・回復施設 ギャンブル等依存症のご本人・・・回復施設</p> <p>第3部 グループワーク テーマ「つなぐ、つながる」</p> <p>1グループ7～8人 × 7グループ</p> <p>感想の共有</p> <p>講師による総評 閉 会</p>
<p>アンケート 結果の概要</p> <p>参加者の 感想</p>	<p><u>回答数 44件（回答率94%）</u></p> <p><u>満足度</u> 大変満足 70%(31件) やや満足 30%(13件)</p> <p><u>効果</u> （複数回答）</p> <p>今まで知らなかった機関や団体、自助Gの人と知り合えた 86%(38件)</p> <p>すでに知っている機関や団体、自助Gの人との関係がさらに深まった 25%(11件)</p> <p><u>支援に役立つか</u> とても役立つ 66%(29件) 役立つ 32%(14件)</p> <p>※未回答1</p> <p><u>主な感想（自由記載）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 依存症のご本人、ご家族の体験談を聞いて、リアルな体験、当事者の苦悩を知る良い機会となった。</li> <li>• 様々な支援機関とグループワークを通じて意見を聞いたり、当事者またその御家族の話など普段あまり聞くことのないような話をきくことができました。</li> <li>• アルコール、薬物、ギャンブル、家族と異なった病を持つ人の話が聞けて良かった。</li> <li>• 顔の見える関係作りのために大切な場だと思いました。頻度高く開催していただけると嬉しいです。</li> <li>• 当事者の方(薬物、ギャンブル)と実際に話す機会が今迄になかったので、とても貴重な時間でした。今後の支援のヒントを得られました。</li> <li>• グループワークの時間がもう少しほしかった。</li> <li>• もう少し時間があればよかった。もう少し小さい単位での集まりがあればよいのかも知れません。</li> </ul>



良かった点

- これまでこころの健康総合センターで実施していた内容に、「依存症の基礎知識」の講義を盛り込んだことで、「依存症について知りたい」という支援者の申込もあった。
- 講師を医師ではなく精神保健福祉士に依頼したこともあって、参加する支援者の視点に近い形での講義を行っていただくことができ好評だった。
- 体験談については、支援者にとっては本人や家族の思いを直接聞くことができる機会となったとともに、自助グループからの参加者にとっては別の依存で悩んでいる方の体験談を聞くことができる貴重な場となった。
- グループワークでは、地域ごとになるべく多様な機関の組み合わせができるような割振りとした。グループ内で支援者の質問に自助グループからの参加者から答えるような場面も多く、非常に近い距離での交流を図れた。
- ブロック外からもアノニマス系の自助グループや民間支援団体などからの申込みがあり、各保健所管内からも多様な機関に参加いただいたことで、多様な問題を抱える本人や家族等への支援のネットワークづくりの一助となったと考える。
- 運営面では、ブロック開催としたことで各保健所の職員にスタッフとして従事していただいたためスタッフ数が多く、ファシリテーターも含めて、円滑に進めることができた。コロナ禍ではあったが、体調不良による欠席者も少なく、対面開催で目的を達成できたと思われる。

課題に感じたこと

- 時間的に、グループワークに割く時間が短くなってしまった。アンケートでも「もっとグループワークの時間が欲しかった」という感想が複数あったため、時間的な制約がある中で工夫するために、グループ数を増やすなどの改善策が求められる。
- 多様な参加機関が参加したが、それぞれの機関について知ることができるのはグループワークの時間に限られた。

今後の展望

- 「今後も継続してほしい」「もっと頻回に開いてほしい」といった声があったことから、今後もこのような場を企画・開催していくことが、地域における依存症支援のネットワークづくりのために求められていると強く感じた。
- 内容としてそれぞれの機関のアピールができる時間も今後設定する必要がある。
- 今回はブロック開催で、1保健所あたり10名程度の参加者を目安としていた（会場のキャパシティ）。そのため1機関あたり最大2名の申込みに制限しキャンセル待ちの申込みもあった。アンケートでも「もう少し小さい単位での集まりがあればよい」との意見もあったことから、今後は各保健所単位での開催も検討が必要と思われる。

## 6 考察

ミニフォーラムはただつながりをつくることだけを目的とする事業ではなく、当事者や家族、支援者同士の対話を通してネットワークの質を高めていこうとする試みである。相談や治療にアクセスした当事者や家族の苦しみやつらさ、ニーズを理解し、適切な支援を行い、他の機関・団体と連携しながら支援ができるようになることもねらいとしている。

最後に本項では、平成30年度から開催してきたOACミニフォーラムの実践について、考察を述べていきたい。

### I 考察

#### (1)ミニフォーラムを開催することの意義や効果

連携会議での意見、参加者の感想等を踏まえ、ミニフォーラムを開催することの意義や効果について、以下10項目に整理した。各ポイントについて、それぞれ考察を記述したい。

- 1) 実務担当者同士で顔見知りになることができる
- 2) 自助グループのメンバーとつながりができる
- 3) 精神保健福祉分野に限らず、さまざまな関係機関とつながることができる
- 4) 会議や研修会ではなく「交流」によって、お互いを知ることができる場になる
- 5) 依存症種別を越えた交流ができる
- 6) 体験談を通して回復の道筋を知ることができる、一人ひとりの回復があることを理解する
- 7) 支援者が回復を信じられるようになる
- 8) 体験談や交流を通して家族の苦悩を知る、感じることができる
- 9) 支援者の中にある偏見への気づき生まれる
- 10) 支援者も孤立せず、ネットワークで問題を解決していく地域づくりに寄与する

#### 1)実務担当者同士で顔見知りになることができる

実際の支援の際の連携で使えるネットワークにするためには、各機関・団体の代表者や幹部ではなく、各機関や団体の実務担当者の参加を呼び掛け、実務担当者同士がつながることが必要である。

#### 2)自助グループのメンバーとつながりができる

自助グループのメンバーに会って対話することで、自助グループのことを理解し、支援者

が自助グループにつながってほしいと思う当事者や家族をつなぎやすくなると考えられる。

しかし、地元で自助グループがない、または休止状態などによって、自助グループからの参加が得られなかったり、非常に少なくなったりする可能性もある。そのような時は、回復施設のスタッフや自助グループのオフィス等に協力を求めたり、普段から意識してオープンミーティングや自助グループ主催のイベントに参加してつながりを作ったりすることも必要である。

最初は自助グループからの参加が少なくても、自助グループの方々に参加することの意義を感じていただければ、次第に仲間を連れてきてくださることもあるため、あきらめずに取り組むことが求められる。

### **3)精神保健福祉分野に限らず、さまざまな関係機関とつながることができる**

依存症に関連する問題は多岐にわたるため、高齢福祉、児童福祉、地域福祉、人権、多重債務関係機関など、さまざまな相談に関わる機関や窓口に参加を呼び掛けている。精神保健福祉関係者だけではなく、さまざまな相談窓口とつながる意識を持つておくことが必要である。

### **4)会議や研修会ではなく、「交流」によってお互いを知ることができる**

会議は課題や問題解決の方法について協議したり、解決のための役割を決めたりするなど、出席者が向いている方向は「課題や問題」である。このため、出席者同士の距離が遠く、時には対峙したり、固い雰囲気になりがちである。

一方、ミニフォーラムは会議とは異なり、参加者が課題や問題に向かうのではなく、当事者や家族の思いに耳を傾け、そこからの学びを大切にできる場であり、中心は「当事者や家族」である。大切にするのは参加者が安心して参加できることであり、リラックスした雰囲気の中で参加者同士が対話することにより、支援に対する考え方やお互いの人柄なども知ることができる機会となる。

### **5)依存症種別を越えた交流ができる**

自助グループの方々は、普段はアルコール、薬物、ギャンブル等の別々のグループで活動されている。このミニフォーラムでは依存種別を問わず関係者が一堂に集まるため、支援者は様々な体験を聴く機会になり、自助グループの方々にとっては、普段と異なるグループの方々の話を聴き、交流できる機会となる。

当事者や家族の方々が、他のグループの方々の体験談を聴かれると、依存症に至る経過や、起こる問題、心情などは共通のものも多いと感じられるようで、うなずきながら話を聴かれる姿が多々見られる。自助グループの方々からは、体験談やグループワークでの交流を通して、「根っこは一緒」「依存の種類は違うけど仲間だと思った」「画期的だと思った」との良い印象の感想をいただいている。

また体験談の発表では、クロスアディクションや、依存対象が違うものに移行していったことを話してくださる方もおられ、支援者にとっても学びを得る機会となる。

## 6)体験談を通して回復の道筋を知ることができる、一人ひとりの回復があることを理解する

回復の道についておられる方の体験談を聴くことで、回復の道筋を知ることができることに加え、複数の方の体験を聴くことで、その道筋には様々な背景があり、一人ひとり回復の道筋は異なることや、回復の概念がそれぞれ異なること、また回復には時間がかかることなどが支援者には理解できる機会となる。

## 7)支援者が回復を信じられるようになる

依存症の回復への道のりは長い年月を要することが多いが、支援者は支援対象者がなかなか依存をやめられないことに焦りや苛立ちを覚えたり、あきらめたり、当事者に対するネガティブな感情が出てきてしまうことがある。

回復の道を歩んでいる人が実際におられ、対話や交流によって回復の道があることを実感することは、支援者の支援のモチベーションにもつながると思われる。

## 8)体験談や交流を通して家族の苦悩を知る、感じることができる

相談の窓口につながるのは、圧倒的に困っている家族が多く、相談窓口の担当者は当事者が不在の中で支援をしなければならないこともある。家族は家庭外に問題を相談することについて悩み、苦しんでおり、やっとながった窓口で家族にもっと頑張るように言われるなどの不適切な対応をされてしまうと、家族は途方に暮れ、孤立を深めていき、さらに問題が悪化することも懸念される。

家族が抱えている苦しみに耳を傾け、家族はどのようなサポートを必要としているのかを体験談や交流を通して知ること、支援者の家族に対する姿勢の変化が期待される。

## 9)支援者の中にある偏見への気づきが生まれる

偏見は回復を妨げるが、支援者にも、メディア等で得るいわゆるステレオタイプの誤ったイメージがあったり、家族を困らせている状況を目の当たりにすると、当事者に対してネガティブな感情を持ったり、場合によっては偏見が生じてしまうことがある。

そのようなイメージ、偏見があるままに支援に携わると、ネガティブな面ばかりに着目してしまったり、回復を信じられず、支援に消極的になってしまいかねない。ミニフォーラムで体験談を聴いたり何度も当事者に出会って対話を重ねて交流することで、支援者の中にある誤ったイメージを是正し、自身の中にある偏見を自覚したり、支援することの敷居の高さを解消することができると期待される。

## 10)支援者も孤立せず、ネットワークで問題を解決していく地域づくりに寄与する

依存症は「孤独の病」と言われたり、回復には「人と人とのつながりが大切」と言われているが、当事者や家族だけではなく、支援者も課題や問題を抱え込んでしまっている場合がある。一人の支援者や一つの機関団体が孤立して解決するのではなく、課題や問題は「ネッ

トワークを利用することによって解決していく」という視点が必要である。

回復を支えていくためには、身近な地域で、依存症のことを正しく理解し、偏見を持たず、共感的に関わることができる支援者がさまざまな窓口や機関において、自助グループを含めてつながるネットワークが各地域にあることが求められる。ミニフォーラムはそのようなネットワークを作っていくためのひとつの手段になると考えられる。

## (2)ミニフォーラムを開催する際に配慮すべき点

ミニフォーラムでは参加者が「安心」「安全」に発言したり、交流できるための配慮が最大限求められる。当センターが3か年にわたりミニフォーラムを実施し、安全に運営するために配慮すべき点と思われたのは以下の8項目である。

- 1) 参加のルールやマナーをはじめに伝える（自分も他の人も大切に作る場にする）
- 2) グループワークを課題解決の話し合いの場にしない
- 3) 支援者向けの研修会にならないようにする
- 4) 当事者、家族の状態に配慮する
- 5) 体験談を話す方の状態にも配慮する
- 6) 対面開催を原則とし、オンライン開催はやむを得ない場合とする
- 7) 参加者がリラックスして参加できるための準備
- 8) どこから誰が来ているのかわかる仕掛けづくりをする

### 1)参加のルールやマナーをはじめに伝える(自分も他の人も大切に作る場にする)

ミニフォーラムはディスカッションの場ではなく、何かを決める場でもない。他の人が話したことを批判、評価しないこと、体験談等の個人の話はその場限りとし、外部に出さないことなどを配布資料に明記し、必ず説明する。また、交流会の時間は限られているため、一人が時間を独占してしまうと他の人の発言の時間が奪われてしまうことになる。与えられた時間を独り占めしたりせず、自分も他の人も大切にするという気持ちで参加してもらう、というマナーをあらかじめ伝えておくことが大切である。

### 2)グループワークを課題解決の話し合いの場にしない

グループワークは「言いつばなし、聞きつばなし」とし、批判、評価はしない。また何かを話し合っまとめたり、結論も出さない。またここで聞いた個人的な話は記録などせず、置いて帰ってもらうことを司会やファシリテーターから伝える。



### 3) 支援者向けの研修会にならないようにする

共通認識をもつために短時間の講義等を入れることはあるが、支援者がスキルを身に着けるための研修会にはせず、あくまでも「当事者、家族から学ぶ」ということを中心とする。また、講義を取り入れる場合であっても、当事者や家族が不快な気持ちになるような内容や表現にはならないよう講義内容を必ず精査し、講師にも依頼しておく必要がある。ミニフォーラムは「当事者、家族から学ぶ」「当事者、家族を真ん中にする」というスタンスであり、支援者のためのものではないことに留意する。支援技術を学ぶための人材育成研修は実施されるべきであるが、ミニフォーラムとは別として考える方が望ましい。

### 4) 当事者、家族の状態に配慮する

過去のミニフォーラムで、体験談を聴いた家族が当時の辛かったことを思い出して調子を崩されたことがあった。参加される際には、当事者、家族の方が安全に参加できるよう、事前に体験談があることをチラシ等に明記することはもちろん、スタッフは参加者の様子に目を配り、不調になられている参加者がいる場合には、対応できるようにしておく必要がある。

### 5) 体験談を話す方の状態にも配慮する

ミニフォーラムは参加者数も多く、関係者も集まるため、自助グループで普段語ることとは全く雰囲気や状況が異なる。当事者や家族ともに、体験談を話されている時に、辛かった時のことを思い出して、調子を崩されてしまう方がおられるので、できれば人前で体験談を話すことに慣れているなど、そのような心配が少ない方に依頼する。ミニフォーラムが、本人や家族が辛い思いをするような場にならないような、安全な場にする配慮が求められる。

体験談を話してくださる方には、あらかじめ打ち合わせの際に主旨を丁寧に説明し、参加者の概要等を伝えることも有効と思われる。

### 6) 対面開催を原則とし、オンライン開催はやむを得ない場合とする

オンラインは移動時間が不要、業務の合間に参加できるなど、気軽さにおいてメリットはある。しかし、交流という点では対面に劣り、交流できたという実感がかなり持ちづらいことが参加者のアンケートや、スタッフの感想として出された。また、体験談を聞いた時にも、共感的な感情が起きづらかったり、画面の向こうで誰が見たり聞いているのか完全には把握できず、安全に実施できている保障がない。

オンラインは手軽であるが、交流をメインとしたミニフォーラムには向かないため、やむを得ない場合に限ったものとし、原則は対面で開催することが望ましいと思われる。

### 7) 参加者がリラックスして参加できるための準備

雰囲気が堅苦しいと参加者も前向きに交流しづらくなるため、温かな雰囲気づくりが求められる。令和4年度開催時には、開始までに会場でBGMをかけたり、花を飾るなどの工夫をされた保健所もあった。グループワークでは、アイスブレイクを入れるなど、話がしやす

い雰囲気づくりは必須である。また、話したくない時は誰でもパスできることもあらかじめ伝えている。

## 8)どこから誰が参加しているのかわかる仕掛けづくりをする

参加機関団体の紹介リーフレットやイベントのチラシ等を配布や配架したり、時間をとって参加機関・団体を一カ所ずつ紹介したり、取組みのアピールタイムなどを取り入れると、どこから誰が参加しているのかわかりやすくなる。誰が来ているのかわかると、休憩や交流会終了後にもあいさつや名刺交換をしやすくなる。もし、参加者の了解が得られるのであれば、参加者名簿や参加機関団体名簿などを配布することも有効であると考えられる。

## II おわりに

大阪アディクションセンターと大阪府依存症関連機関連携会議の関係のように、関係者が集まり会議を開催したり、機関や団体を名簿化してつながりを可視化し、それをネットワークと呼ぶこともできるが、形を作っただけでは実際の支援の際の活用には至らず、いずれ形骸化する可能性もある。

このため、支援機関や団体、自助グループの人たちがお互いの活動や役割を知り、お互いの顔が見える関係づくりを行うため、連携会議の委員や、大阪アディクションセンター加盟機関・団体の方々の意見を元にして、OAC ミニフォーラムの事業が出来上がった。

また、OAC ミニフォーラムはただ機関や団体、人をつなげるだけのものではなく、「当事者、家族から学ぶ」という姿勢で、体験に耳を傾け、対話や交流することを通してネットワークの強さや質を上げていくという性質も持ち合わせている。支援者にとっては、体験談や交流を通して、依存症からの回復の道筋や回復があること、時間はかかるがあきらめずに支援することの大切さなどを学ぶ機会となる。

当事者や家族は自分たちに向けられる偏見や、罰せられたり非難されることを恐れて家庭の中の問題を誰にも話せず、孤独な状況に置かれていることがある。やっとながつなげた窓口や関わりができた機関等で、共感的に関わってもらえない、依存をやめられないことや対応を非難されるようなことがあれば、当事者や家族は相談し続けることを諦めてしまうことにもなりかねず、回復を阻害することになってしまう。

当事者や家族の主体性が尊重され、安心、安全に支援が受けられるようなネットワークが身近な地域にあることが必要であるが、そのためには、さまざまな窓口の担当者や支援者一人ひとりが当事者や家族の苦しみを理解し、偏見なく正しい知識を持って、回復を信じてあきらめずに関わる姿勢がまず求められ、ミニフォーラムは、そのようなネットワークを地域に作っていくための試みとも言える。

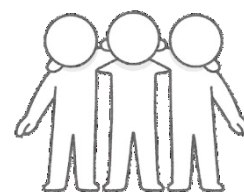
また見落としがちな点として、当事者や家族が依存症によって孤立してしまうことは課題となっているが、支援者も孤独に相談対応等をしている場合がある。依存症からの回復を支える地域づくりのためには、支援者も孤立せずにつながりを持ち、依存症が関連する様々な問題を



個人や一組織で解決しようとしたり、責任を負うことがないようなネットワークを作っていくことが求められる。

当事者や家族の苦しみが救われ、回復への歩みをすすめていく、そのための安心、安全な、当事者や家族、支援者の誰も孤立しないネットワークがある地域づくりのために、この OAC ミニフォーラムの実践が参考になれば幸いである。

# 参考資料



## 【参考資料一覧】

参考資料1:平成 30 年度 OAC ミニフォーラム 案内チラシ(表面)

参考資料2:平成 30 年度 OAC ミニフォーラム グループワーク・交流会  
参加者用記入シート

参考資料3:令和元年度 OAC ミニフォーラム 案内チラシ(表面)

参考資料4:令和元年度 OAC ミニフォーラム グループワーク・交流会  
参加者用記入シート

参考資料5:令和3年度 OAC ミニフォーラム 案内チラシ(表面)

参考資料6:令和3年度 OAC ミニフォーラム ミニ講義資料

参考資料7:令和3年度 OAC ミニフォーラム グループワーク・交流会  
オリエンテーション用 参加のルール等記載資料

参考資料8:大阪アディクションセンター加盟機関・団体名簿

# OACミニフォーラムを開催します！

関係機関・団体同士が情報共有・連携しながら、  
依存症の本人および家族等の相談・治療・回復を途切れなく支援するために、  
大阪アディクションセンター（OAC）というネットワークがあります。



「依存症の人の相談を受けたけど、どこにつなげばいいかわからない…」  
「依存症の人はどんなふうに回復していくの？」  
「回復施設や自助グループって、どんなところ？」



このように思ったことはありませんか？  
各団体の取組み報告や体験談、交流会を通して、  
さまざまな支援機関・団体同士で顔の見える関係をつくっていきましょう！

## 日程・会場

所属機関のある市町村のブロックにご参加ください。  
(所属機関が大阪市にある方は、どのブロックにも参加可能です。)

	圏域	開催日	会場 ※公共交通機関をご利用ください
第1回	【北ブロック】 能勢町、豊能町、池田市、箕面市、 豊中市、茨木市、高槻市、島本町、 吹田市、摂津市	平成 30 年 12 月 14 日(金) 14 時～17 時	大阪府吹田保健所 2 階 講堂 (吹田市出口町 1 9-3)
第2回	【南ブロック】 和泉市、高石市、泉大津市、忠岡町、 岸和田市、貝塚市、熊取町、 泉佐野市、田尻町、泉南市、阪南市、 岬町、堺市	平成 31 年 1 月 9 日(水) 14 時～17 時	岸和田市立 福祉総合センター 3 階 大会議室 (岸和田市野田町 1-5-5)
第3回	【東ブロック】 枚方市、交野市、寝屋川市、守口市、 門真市、四條畷市、大東市	平成 31 年 1 月 15 日(火) 14 時～17 時	大阪精神医療センター 3 階 大会議室 (枚方市宮之阪 3-1 6-2 1)
第4回	【中ブロック】 東大阪市、八尾市、柏原市、松原市、 羽曳野市、藤井寺市、太子町、 河南町、千早赤阪村、富田林市、 大阪狭山市、河内長野市	平成 31 年 1 月 24 日(木) 14 時～17 時	大阪府藤井寺保健所 2 階 講堂 (藤井寺市藤井寺 1-8-3 6)

## プログラム予定

- ◇大阪府における依存症対策の説明
- ◇大阪ダルク・大阪マックの取組み報告
- ◇当事者・家族の体験談
- ◇グループワーク・交流会

**対 象：**OAC加盟機関・団体

自助グループに所属されている方  
相談支援に携わる関係機関の方

**定 員：**各ブロック 50 名程度

**参加費：**無料

※参加された方には、参加者名簿を配布します。

※連携が目的の交流会です。ご自身の名刺や所属機関の案内ちらしなどご持参ください。

## グループワーク・交流会 シート

今回のグループワーク・交流会の目的は、依存症支援に携わる各機関・団体同士で顔の見える関係づくりを目的にしています。

グループワーク中は名札をつけてください。

このシートは、グループワーク中のご自身のメモにお使いください。

○ 自己紹介

①名前 ②所属 ③自分のセールスポイント

○ グループワーク・交流会 テーマ

「自助グループにつながってよかったこと」

「依存症の方の支援を通して感じていること」



# OACミニフォーラムを開催します！

関係機関・団体同士が情報共有・連携しながら、  
依存症の本人および家族等の相談・治療・回復を途切れなく支援するための、  
大阪アクションセンター（OAC）というネットワークがあります。

「依存症の人の相談を受けたけど、どこにつなげばいいかわからない…」  
「依存症の人はどんなふうに回復していくの？」  
「回復施設や自助グループって、どんなところ？」  
このように思ったことはありませんか？

依存症についての体験談や各機関・団体との交流を通して、  
さまざまな支援機関・団体同士で顔の見える関係をつくっていきましょう！

**対 象:** OAC加盟機関・団体の実務担当者、  
市町村職員、医療機関職員、自助グ  
ループメンバー、相談支援機関職員  
**定 員:** 各ブロック  
午前：50名程度  
午後：50名程度  
**参加費:** 無料

※午前のみ・午後のみ参加も可能です。  
※参加された方には、  
参加者名簿を配布します。  
※連携が目的の交流会です。  
ご自身の名刺や所属機関の案内ちらし  
などありましたら、ご持参ください。



**第一部（10:00から  
12:30まで）**

## 研修会（支援者向け）

- ◇精神科医による講義「依存症の基礎知識」
- ◇弁護士または司法書士による講義  
「依存症の視点を入れた借金に関する相談対応（仮）」



**第二部（13:30から  
16:30まで）**

## 交流会・ミニフォーラム

- ◇大阪府の依存症対策の説明
- ◇ミニ講義「依存症の相談を受けるときのポイント」
- ◇依存症の本人・家族による体験談
- ◇グループワーク・交流会

交流会で顔見知りになっ  
て、今後の支援に  
活かしましょう。



## グループワーク・交流会 シート

今回のグループワーク・交流会の目的は、依存症支援に携わる各機関・団体同士で顔の見える関係づくりを目的にしています。

グループワーク中は名札をつけてください。

このシートは、グループワーク中のご自身のメモにお使いください。

○ 自己紹介

①名前 ②所属 ③自分のいいところ

○ グループワーク・交流会 テーマ

「自助グループにつながってよかったこと」

「依存症の方の支援を通して感じていること」

今年はオンライン(Zoom)で開催します!

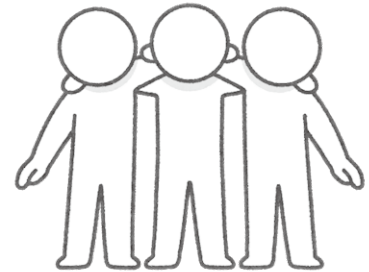
# オーエーシー OAC

## ミニフォーラム

「OAC」とは、「大阪 アディクションセンター」の略称で、関係機関・団体同士が情報共有・連携しながら、依存症の本人および家族等の相談・治療・回復を途切れなく支援するためのネットワークです。

「依存症の人の相談を受けたけど、どこにつなげばいいかわからない…」  
「依存症の人はどんなふうに戻っていくの？」  
このように思ったことはありませんか？

依存症についての体験談や各機関・団体との交流を通して、  
さまざまな支援機関・団体同士で顔の見える関係をつくりましょう!



中ブロック

12月8日(水)

東ブロック

12月20日(月)

北ブロック

1月24日(月)

南ブロック

1月28日(金)

所属機関・団体の所在地の市町村が属するブロック(裏面参照)にご参加ください。  
(所属機関・団体が大阪市内にある方は、どのブロックでも参加可能です。)

開催時間 13時30分から16時30分まで

開催方法 オンライン(Zoom) ※裏面の「オンライン参加にあたっての注意点」をよくご確認ください。

### 内容(予定)

- (1)ミニ講義・OACの説明
- (2)体験談
  - 本人の体験(アルコール、薬物、ギャンブル等依存症)
  - 家族の体験
- (3)グループワーク・交流会
  - (ブレイクアウトルームに分かれて交流します)

### 対象

府・中核市保健所等職員、OAC加盟機関・団体の実務担当者、市町村職員、医療機関職員、自助グループメンバー、相談支援機関職員



**定員** 各ブロック 50名程度(申込先着順)

**参加費** 無料(通信費はご負担ください)

**申込方法** 裏面を参照




**ミニ講義**  
**「支援者のこころ構え」**  
 ～ひとりで抱え込まず、  
 回復を信じて関わろう～


意志が弱い  
 治らない  
 放っておけばいい  
 やめる気がない

**陥りやすい場面①**  
 依存症に対する間違ったイメージで対応する

**支援者のこころ構え①**  
 支援者が依存症についての知識を持って関わる



物質の使用や行為を自分でコントロールできなくなる病気  
 回復が可能である  
 誰でもなる可能性がある



前回の訪問  
 前回の電話連絡


**陥りやすい場面②**  
 本人の依存をなんとかやめさせようとする

**支援者のこころ構え②**  
 依存する理由を考え、気持ちに寄り添う

依存症の方は不安や苦痛を感じたり、孤独な状態があったりして、物質や行為に依存している可能性がある。

↓

- ・ 本人の気持ちに耳を傾ける。
- ・ なぜこの人には依存が必要だったのか、気持ちに寄り添い支援する。




もうパチンコはやらないって言ったのに…  
 お酒は絶対に飲まないって約束したのに…

**陥りやすい場面③**  
 やめられない本人の姿をみて、支援者が、「残念な気持ち」や「裏切られた気持ち」になる

### 支援者のこころ構え③ 回復を信じて関わる

- ・ 依存症は行きつ戻りつしながら回復していく。
- ・ 本人が回復したいという思いを確認し、  
そのためにできることを一緒に考えていく。



支援者自身が  
回復のイメージを持って  
信じて関わるのが大切！

7

どんなことを  
しているところ  
なんだろう…

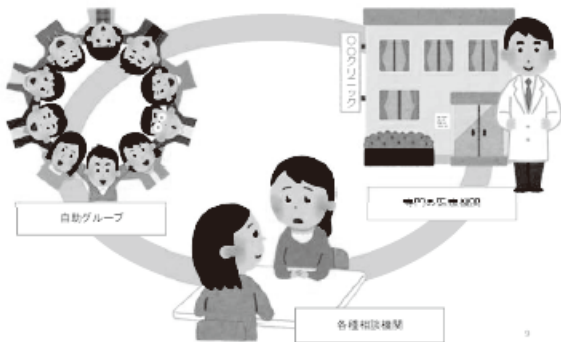


行っても  
無駄じゃ  
ないのかな

陥りやすい場面④  
自助グループが何をしているか知らない

8

### 支援者のこころ構え④ それぞれの機関の役割を理解して、つながる



9

陥りやすい場面⑤  
本人が来ないとどうしようもないと思ってしまう



依存症の支援において  
本人が相談に  
登場しないことは  
しばしばあります。

10

まずは、  
家族だけでも、  
ご相談ください



支援者のこころ構え⑤  
家族の支援を続けることで、  
本人への支援の糸口が見つかる可能性がある

11

どうして  
やめられないのか



どう支援したら  
いいだろう…？

陥りやすい場面⑥  
不全感をもったり、疲れ果ててしまったと感じる

12

支援者のこころ構え⑥  
ひとりで抱え込まないで！

上司や同僚に  
相談する

支援について  
共有する

カンファレンス  
を行う



13

支援者のこころ構え（まとめ）

- その① 依存症についての知識を持って関わる
- その② 依存する理由を考え、気持ちに寄り添う
- その③ 回復を信じて関わる
- その④ それぞれの機関の役割を理解して、つながる
- その⑤ 家族の支援を続けることで、本人への支援の糸口が見つかる可能性がある
- その⑥ ひとりで抱え込まないで！

14

### 【OAC ミニフォーラム参加にあたってのお願いとお知らせ】

1. 交流を目的としていますので、カメラはオンにしてご参加ください。
2. マイクは最後のグループワークで使用します。ミニ講義と体験談の間は、マイクをミュート(消音)にしてください。
3. 体験談の発表もありますので、今日、お聞きになった体験談については、この場限り  
ということをお願いします。
4. 参加者名簿は、参加されていない方には渡さないようにお願いします。
5. オンラインでグループワークをしている様子などの写真を撮り、ホームページに掲載できればと思っています。お一人お一人の顔がわからないよう、ぼかしもかけます。不都合がある方いらっしゃいましたら、ミニ講義が終わるまでに(14 時頃までに)事務局あてにチャットでお知らせください。
6. 今回の入室の際に、アカウント名を、「名簿番号、お名前、アットマークの後に所属(所属がある方のみ)」となるよう変更していますのでご了承ください。
7. グループワークでは、事務局でブレイクアウトルームごとに振り分けさせていただきます。
8. やむを得ない事情で途中で退室される場合は、グループワークのグループ分け等に  
影響しますので、事務局あてにチャットで退室されることをお知らせいただいた上で  
退室してください。
9. 各機関・団体からイベント等のお知らせがあれば、最後に口頭でお伝えいただく時間を少しとりたいと思います。当日は口頭でお伝えいただき、チラシ等の配布希望があれば、後日メールでチラシ等の電子媒体を事務局までお送りいただければ、本日ご参加いただいた皆様にメールで送らせていただきます。



### 【グループワーク参加にあたってのお願い】

①グループワークでの発言に対して、評価や批判、一方的にアドバイスすることは控えてください。

②自分が話してもよいと思うことだけをお話してください。

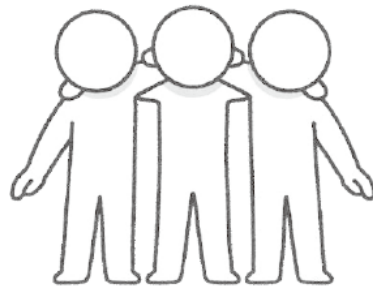
\*話すことで、自分がしんどくなるかもしれないと思うことは、話さないでください。

\*話したくなかったら、「パス」してもかまいません。

③秘密をお守りください。

\*この時間内に見聞きした個人情報については、他の場所で、他の人に、話さないようにしてください。

皆さんが安心してグループワークを進められるよう、ご協力をお願いします。



大阪アディクションセンター加盟機関・団体名簿 (令和5年3月1日時点)

	団体・機関名	分類
1	一般社団法人 大阪精神科病院協会	団体
2	一般社団法人 大阪府断酒会	団体
3	一般社団法人 大阪府薬剤師会	団体
4	大阪司法書士会	団体
5	大阪弁護士会	団体
6	公益社団法人 大阪精神科診療所協会	団体
7	一般社団法人 大阪精神保健福祉士協会	団体
8	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会関西支部	団体
9	関西アルコール関連問題学会	団体
10	大阪クレサラ・貧困被害をなくす会(大阪いちょうの会)	機関
11	医療法人和気会 新生会病院	機関
12	医療法人聖和錦秀会 阪本病院	機関
13	医療法人以和貴会 金岡中央病院	機関
14	医療法人利田会 久米田病院	機関
15	医療法人爽神堂 七山病院	機関
16	医療法人丹比荘 丹比荘病院	機関
17	特定医療法人大阪精神医学研究所 新阿武山病院	機関
18	一般財団法人 成研会 結のぞみ病院	機関
19	医療法人聖和錦秀会 阪和いづみ病院	機関
20	特定医療法人大阪精神医学研究所 新阿武山クリニック	機関
21	医療法人 東布施辻本クリニック	機関

	団体・機関名	分類
22	医療法人隆帆会 梶本こころのクリニック	機関
23	医療法人遊心会 にじクリニック	機関
24	医療法人光愛会 ひかりえクリニック	機関
25	モト心療内科クリニック	機関
26	医療法人横敏会 よこうちクリニック	機関
27	医療法人 藤井クリニック	機関
28	医療法人大峯会 高山診療所	機関
29	医療法人以和貴会 あいメンタルクリニック	機関
30	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪精神医療センター	機関
31	特定非営利活動法人 大阪ダルク	機関
32	特定非営利活動法人 大阪マック	機関
33	特定非営利活動法人 いちごの会	機関
34	ギャンブル依存症問題を考える会大阪支部	機関
35	特定非営利活動法人 スキマサポートセンター	機関
36	全国ギャンブル依存症家族の会 大阪	機関
37	関西薬物依存症家族の会	機関
38	自助グループ(依存症の当事者)	自助グループ
39	大阪刑務所	機関
40	大阪保護観察所	機関
41	近畿厚生局麻薬取締部	機関
42	交野女子学院	機関
43	大阪少年鑑別所	機関
44	大阪地方検察庁	機関
45	法務省大阪矯正管区	機関



	団体・機関名	分類
46	大阪市こころの健康センター	機関
47	堺市こころの健康センター	機関
48	大阪府保健所	機関
49	豊中市保健所	機関
50	高槻市保健所	機関
51	枚方市保健所	機関
52	東大阪市保健所	機関
53	八尾市保健所	機関
54	寝屋川市保健所	機関
55	吹田市保健所	機関
56	大阪府健康医療部保健医療室地域保健課	機関
57	大阪府こころの健康総合センター(事務局)	機関





大阪府

大阪府こころの健康総合センター

〒558-0056 大阪市住吉区万代東3丁目1-46

TEL 06(6691)2818 / ファックス 06(6691)2814

ホームページ <http://kokoro-osaka.jp/>

令和5年3月発行